

# 育教の兒幼

號 十 第 號 月 十 卷三十三第



內 校 學 範 師 等 高 子 女 京 東  
會 協 園 稚 幼 本 日

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

菊判全一冊洋綴紙數四百五十頁插畫百餘  
定價金三圓五十錢・送料三十三錢

新刊

# 最近心理學概說

## 卷下

文檢必要  
讀書最近  
學心漸速  
完成

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗  
示に滿ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・教育心理學・青少年心理學・發明心理學・  
個性性格心理學・社會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の一體系を知るに止まらず科學の一般  
的知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の教師は生徒兒童の心的體制の理論と應用を  
法論・生活論・學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒兒童の心的體制の理論と應用を  
教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制の最も即事的なる論理と應用を  
示され斯くてこそ心理學は科學振つて萬人の乞必讀。

最近心理學概說 上卷

定價三圓五十錢  
送料三十三錢

文學博士 小野島右左雄著

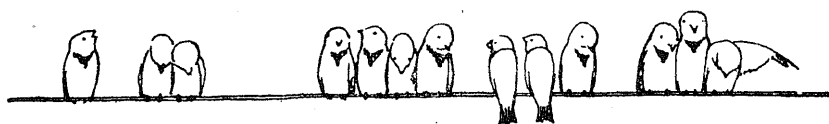
新刊

# 性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴紙數四百五十頁插畫百餘  
定價金三圓五十錢・送料三十三錢

心理學が兒童研究に及ぼした各種の功績及び心理學が人間の個性調査・性格検査に齎した各般の効果を從は實に  
心理學なるものではあるけれども、併し既に之等の研究が方法乃至検査之法に就いては著々と切り開かれたるに達し、  
方此の學界の幾多の疑問が最近の業績を見出されようとする。然るに其内容に於ては兒童研究、性格心理學  
教授法に依つては幾多の疑問が最近の業績を見出されようとする。然るに其内容に於ては兒童研究、性格心理學  
出學之主眼を置き、各種の新研究を發表し、その進展に寄與す。されば一般心理學徒及び教育家篤學者の御來讀  
を乞ふ。

振替東京市牛込區 中野區 文庫書店 發行所  
電話 牛込三三二番 電話 牛込三三二番  
七二四八三三番



# 第三十三卷 幼兒教育の第十號

## —(次 目)—

口 繪

健康(卷頭)

倉橋惣三：(一)

幼兒性行評定尺度に就て(四)

淡路圓治郎：(二)

幼稚園教育の獨自性に就きて

和田實：(一五)

健康の秋

幼兒の健康増進に就て

岡田道一：(一〇)

幼兒體育の話

岩原拓：(二四)

幼兒の身體教育に對する考察

宮田覺造：(一七)

幼兒と日光浴

岩村清四郎：(一三)

噫 巖谷小波先生

葛原しげる：(一四)

幼兒教育にも一業専心主義が必要

牛島隆則：(一六)

十一月の觀察

堀七藏：(一五)

自動車利用の園外保育につきて

脇屋直：(一五)

山下ツヤ子女史、千葉秀子女史

土川五郎：(一六)

今秋の關西聯合保育會に提出されたる談話題に就て

大塚喜一：(一六)

實際家の意見を集めて

本會調査部：(一六)

遊戲「お月さま」

土川五郎：(一五)

# コドモノエト

定価一冊五拾錢 二錢 共 前年 半 金 貳 圓 八 拾 錢 稅 共 號 月 一 十 賣 發 日 五 月 十

## 編輯顧問

東京女高師附屬幼稚園主事  
東京高等師範圖書科主任

倉板 倉橋

惣賛 三治

◎秋です。秋は心が落付きます。氣

かさはやかにあります。讀書に親

を唄ひます。子供は聲を張りあげて歌

處に修養の道が拓け、智識の鍵が

渡されます。

◎子供の天地は今、聲をあげて唄ひ、

聲をあげて読み、親を慕ひ、師を

追ふて、修養の道を探し、智識の

鍵を求めてゐます。

◎「コドモノテンチ」十一月號は、其

親であり、師であります。修養の

道であり、智識の鍵であります。

◎「コドモノテンチ」は、近代的色彩

に富んだ、新しい子供の心につれ

た、最も理想的な子供雑誌であり

ます。子供繪本であります。

◎自分の子供をよく育て、善良なる

習慣を養ひ、明らかな子供の心を

保つためには、お父さまもお母様も

## 編輯幹部

### 十一月號目次

表紙(きのこがり)

編(タビ)

モミヂ

明治節(マスケゲーム)

七五三のお祝ひ

自動車(エンヂン)

猫屋さん(童謡)

お猿さん

動物遊戲(童謡・曲譜)

犬の大學(軍用犬の訓練)

コリストセンセイ(童話)

楽しい遠足

テルコチャンノオデカケ(童話)

カカシ(案山子)

新式ブランコ

メタルテスト

子供の童謡(當選發表)

裏表紙(子供の細工)

清水水

石井水

吉井水

森井水

伊藤水

西澤水

吉澤水

野澤水

深澤水

本澤水

初澤水

岩澤水

吉澤水

川澤水

岡澤水

岩澤水

岡澤水

川澤水

岡澤水

古思江 和鷹見久雅太夫郎

電話大塚三五六〇  
振替東京四九五〇四

子供の天地社

發行所



# 育 教 の 兒 幼

月 十 年 八 和 昭

## 健 康

伸びゆくものを育て、何より第一の楽しみは伸ばすことだ。充ち張るものを養つて、一番の愉快は充ち張りすごさだ。ほかのことはまあゆつくりでもいい。健康は一日を忽せに出来ない。

教育。その名が時々抽象すぎる。先づ身體だ。皮膚、筋肉、骨。目、耳、鼻、喉、齒。そして胃、腸、肺、心臓、何、何。それが強くての上の心の教育だ。――保姆は醫者でないなんていふのは誰れだ。ここに醫者でない母があるか。我が子の健康に苦心しない母がどこにあるか。お話をして、歌をうたつて、繪をかくて、色紙細工をして、それだけで幼児の健康に苦心しない幼児教育者が、どこにあるか。

晴れた秋だ。戸外のいゝ秋だ。健康だ。健康だ。健康だ。

# 幼兒性行評定尺度に就て (四)

淡路圓治郎

## (三) 觀察の機會

兒童の性行は悉ゆる言語舉動に現れるもので、炯眼な教師が注意深く見詰めるならば、兒童の片言隻語、一舉手一投足からでもその個性的特色を認知し得べき筈であります。この意味に於て、兒童の幼稚園の内外で示す一切の動作はざれ一つとして觀察の對象ならぬものは無いわけであり、特に觀察の機會を限る謂れはない筈であります。偶然の言語や舉動の裡から性行を見抜くには、特に洞察眼に恵まれた教師が相當に經驗を積んだ上でないで、信賴が出来ないものであります。素人の勘まかせでは反つて危険千萬で、なまじ觀察がましいことはしない方が安全であります。

また實際に於て、ある種の性行はある方面の動作に比較的顯著に現れ、またある種の性行は他の方面の動作に比較的頻繁に認められるなど、性行項目の如何によつて、些かその關係を異にして居ります。自然、各種の性行は夫々比較的に顯著にまた頻繁に現れて捉へ易い方面の動作を通じて觀察する方が、判斷が正確でもありまた容易でもあることゝなります。

今、私共が選定しました性行項目二十種につき、夫々に於ける兒童の特色を觀察するのに比較的に適當な動作を選び、特に之を捉へるのに好都合な場合を例示して見ます。次のやうになります。尤も茲に掲げますものは、八名の先生の御意見に私見を加へて取捨したもので、必ずしも適切なものばかりは云へません。寧ろ觀察機會の一例を考へて、他に一層適切なものがあれば、研究の上御挿替ねがひたいのであります。更にまた私共はこれ等の機會以外には、その種の性行

は絶対に觀察が出来ないとするものではありませんから、あらゆる場合を利用し、常に廣く兒童の言語舉動に注意して、觀察を補正せられんことを望みます。

1、「氣むづかしい——氣輕である」。自由遊びの時、共同製作又は團體的行動の時、お辨當の時、保姆との問答の時等。  
2、「興奮し易い——平靜である」。お話をきいてゐる時、自由遊びの時、競争的な遊戲の時、お話し合ひの時、友達との喧嘩の時、嬉しがる時等。

3、「何事にも興味が薄い——物事を知りたがる」。繪本をよむ時、お話をきく時、自由製作の時、お話し合ひの時、觀察の時、特に室外に出来事がある場合等。

4、「氣が散り易い——よく注意する」。お話をきく時、製作の時、テストの時、長く坐つてゐる時等。

5、「倦きつぱい——根氣がない」。一般の時間特に作業の時、自由遊びの時、友達との關係等。

6、「性急である——落つきがある」。お辨當の時、作業殊にぬりえ、切紙などの時、競争的な遊戲の時、お話し合ひの時、テストの時、放課間際等。

7、「元氣がない——元氣である」。自由遊戲の時、團體遊戲の時、野外保育の時等。

8、「獨創が少い——工夫をこらす」。砂遊び、積木遊び、粘土細工、自由畫、その他自由製作の時等。

9、「意思を發表しない——卒直である」。保姆との問答の時、友達同士の會話の時、自發的質問の時等。

10、「言ひなり次第になる——自分の考で行動する」。

子供同士の遊び(まっごご、お店遊びなど)の時、共同製作の時、集團遊戲の時、等。

11、「ひみの厄介になりたがる——自分のこゝは自分でする」。登園又は退園に際し身のまわりや持物などの始末をする時、お辨當の時、野外保育の時、作業の時等。



12、「剛情をはる——すなほである」。自由遊び殊にまゝごこ、お人形遊びなど友達と一緒に遊んでゐる時、團體遊戲の時、友達との口論の時、保姆から訓戒せられた時等。

13、「ひきりほつちを好む——協力する」。自由遊びの時、共同製作の時、野外保育の時等。

14、「我儘に振舞ふ——秩序を守る」。共同製作の時、團體遊戲の時、園の催事の時、等。

15、「ふざけたがる——悪ふざけをしない」。團體遊戲の時、自由遊びの時、遊びの後先き、園の催事の時等。

16、「ねたみ深い——そねまない」。まゝごこ遊びその他遊び道具を分け持つ時、他の子供が綺麗な衣服や新しい持物をもつて來た時、自由遊びの時、製作の時等。

17、「よくすねる——我慢する」。家人の附添つてゐる時、自由遊び殊にまゝごこなどで友達と利害の衝突した時等。

18、「ひみをいぢめる——睦み合ふ」。自由遊び特に共同的な遊びの時。女兒若くは年下の友達と遊ぶ時等。

19、「冷淡である——ひみの面倒を見る」。自由遊び特に共同的な遊びの時。女兒若くは年下の友達と遊ぶ時、新入園の友達と遊ぶ時等。

20、「ものを粗末にする——ものを大切にする」。製作材料を取扱ふ時、玩具繪本などを取扱ふ時、自分の持物を取扱ふ時等。

### (ホ) 評定の仕方

既定の二十項目の性行に關して、兒童の状態を評定するには、便宜、下の下、下、中、上、上の上の五段階に分つて判斷し、夫々に-2、-1、0、1、2、の評點を與へることに定めます。

(2) 下の下、その點に關して例外的に好ましくない状態にある場合、

(1) 下、相當に好ましくない状態にある場合、

(0) 中、 普通の状態にある場合、

(1) 上、 相當に好ましき状態にある場合、

(2) 上の上、 例外的に好ましき状態にある場合、

例へば「氣むづかしい——氣輕である」について云へば、ある兒童が假りに特に氣むづかしくもなくまた特に氣輕でもなく、この點に關して他の一般の兒童と大差がないと判斷せられた場合には、之を普通と見做して中を査定し、○の評點を與へます。またある兒童がその組の中でも可成り氣むづかしやの方であつて、平素取扱に困じてゐられる場合には、之を相當に好ましくない状態にあるものと考へて、下を査定し、-1の評點を附します。またある兒童がその組の中でも指折りの氣輕な子供で、保育上好ましい状態にあると考へられたならば、之を上を査定して1の評點をつけます。更にまたある兒童が非常に氣むづかしやで組中にその比を見ず、保姆自身もこんな氣むづかしやには初めて出會つたと思はれるやうな場合には、之を例外的な状態と見て下を査定し、-2の評點を與へます。また逆にある兒童が非常に氣輕で、これ迄経験した澤山の子供の中ではむしろ珍らしい状態にあると考へられたならば、之を良い意味での例外と見做して上の上を査定し、2の評點を附します。

その他の性行項目に於ても全く同様で、いつも前述の原理に従つて、兒童を五段階の孰れかに割當て、評定するのであります。

この方法によりますと、孰れの項目に於ても、全園若くは一組の兒童の大部分は中、少數の兒童が上又は下、極少數の兒童が上の上又は下の下を評定せられるのでありまして、上の上又は下の下を評定せられるものが無い場合も出て來るのであります。

統計上から見ますと、何千人といふ兒童の場合では、恐らく中は全員の八〇パーセント、上、又は下は夫々約一〇パー

セント、上の上又は下のは夫々約一パーセント位の割合になるのではないかと思はれますが、五十人や百人の児童の場合では、必ずしもこの数字のやうな場合にはならないかも知れません。

寧ろ一般の幼稚園では、あまり人数の分布のここには囚はれないで、保姆の先生方が、虚心平氣に、自分の平素の保育上の經驗に鑑みて、大まかに五段階に區分して査定せられるのが安全でせう。

### (へ) 記入の仕方

評定の結果は適宜一定の書式に従つて記録にきづめ、平常の保育に活用せられなければなりません。児童の性狀をたゞ漫然と觀察したゞけで、整理しないで置く、忘れられ易くて、保育上に活用せられることが少いものであります。

また保育に當つては、箇々の児童を相互に比較したり、同じ児童でも種々の特徴を相互に比較して、保育の分針を定め適切な處置を講ずる必要があるのですから、この目的から云つても、各児童の各種の特徴が相互に一目瞭然となるやうに、適當に記録にきづめて整理することを怠つてはなりません。

殊に他の保姆の先生に児童を引つづぐ場合、また児童が小學校へ進む際などには、児童に關する觀察資料を提示して參考に供することが必要であり、また幾人かの保姆若くは教生の方々が児童を取扱はれる場合には、相互の所見を披瀝し合ふ必要もありますから、一定の書式に従つて、觀察結果を整理して置くことは極めて大切であります。

然し乍ら、性行の評定は記録することが目的ではなく、保育上の活用を旨とすべきでありますから、記録の様式並びに記入の手續はなるべく煩雜を避けて、役立つ限り、簡潔に工夫せられなければなりません。

私はこの趣旨に基きまして、前掲(七月號3頁所載)の記入票を工夫しました。

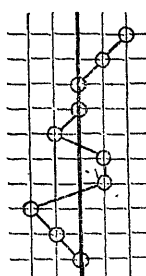
擔任の保姆の先生は二十の性行項目につき一児童を仔細に觀察し、その狀態を五段階法に従つて適當に査定し、上の上の場合には記入票の該當欄の2の所に圓をつけ、上の場合には同様に1の所に、また下の場合

には-1の所に、更にまた下の下の場合には-2の所に圓をつけます。かくして、二十項目の全部について、圓をつけ終つた後に、これ等の圓を順に直線であつないで、左右に凹凸のある波線を描きます。この線を假りに「人物輪廓線」を呼ぶことに致します。

# 人物輪廓線の例

-2-1 0 1 2

- 1 氣むづかしい
- 2 興奮し易い
- 3 何事にも興味が薄い
- 4 氣が散り易い
- 5 倦きつばい
- 6 性急である
- 7 元氣がない
- 8 獨創が少い
- 9 意思を發表しない
- 10 言ひなり次第になる



氣輕である  
 平靜である  
 物事を知らる  
 よく注意する  
 根氣がある  
 元氣である  
 工夫をこらす  
 卒直である  
 自分の考で行動する

この「人物輪廓線」に於て、波線が右方に突出してゐる部分はその兒童がその性行項目に關して比較的に好ましき状態にあることを示し、左方に突出してゐる部分は、その兒童がその性行項目に關して可成り憂ふべき状態にあることを意味します、即ち前者はその兒童の長所で、個性教育上助長すべき點であり、後者はその兒童の短所で、矯正を必要とする點に當るわけであります。従つて、吾々はこの種の「人物輪廓線」を一覽すれば、その兒童に對する保育上の力點を見定めることが出來、之に基いて今後の保育上の方針を定め、適切なる處置を講ずることが出來るのであります。尤もこの「人物輪廓線」は出鱈目な觀察や無責任な査定に據つて作成せられたのでは、弊害はあつても効果はありませんが、正確なる觀察と慎重なる査定とに基く限り、相當に有益なものと思ひます。

評定の時期を三期に分つ場合には、その都度一葉づゝの記入票を用ひて記載してもよし、また一葉を以て三回の記入に當てゝも差支へはありません。しかし、兒童の發育に伴ふ性狀の變化を窺ひ、また殊に保育の効果を動的に眺めるためには、一葉にすべてを記載する方が便利であります。この場合には入園直後の査定を黒色で、一年の終のものを青色で、二年の終即ち小學校へ進む間際のを赤色でいふ工

合に、インキの色を變へて同一記入票に記入するならば、各期の「人物輪廓線」を比較することによつて、兒童の性狀が保育中に如何に變化したかを知り、助長若くは矯正の效果が如何に現はれたかを確めることが出來て、その後の對策若くは處置を講ずるのに好都合であります。

### (ト) 評定者の資格及び心得

- 1、評定者は保育の経験が深く、相當に鑑識眼を備へた人であるべきこと。
- 2、評定者は評定すべき兒童に平素よく接觸し、相當に廣くその兒童の行狀を知つてゐること。
- 3、偶然特殊の事例に囚はれて即斷しないで、根氣よく觀察を反復し、その兒童の多くの場合の行動を綜合した上で判斷すること。
- 4、一人の評定者だけで觀察評定しないで、なるべく多數の人々の判斷を利用し、評定者の主觀による歪みを防ぐこと。
- 5、兒童を單獨に眺めないで、常に同輩と比較した上で判斷すること。
- 6、兒童を大人の標準で判斷しないで、どこまでもその年齢相當の子供として判斷すること。
- 7、性行項目中には、一般に觀察し易いものと觀察し難いものがあり、また兒童によつては觀察の難易の關係が異なるものがあるから、項目の全部に互つて一時に査定しやうとはしないで、適宜觀察の出來るものから觀察し、確定的な判斷が下し得られたら記入して、徒らに査定をあせつたり、また強いて判決を下したりなどしないこと。
- 8、評定は單に兒童の性行の狀態を知つて保育の方法を定めるために行ふもので、兒童の人格を價值づけするために行はれるものではありません。従つて評定者自身が之によつて兒童の道德的價值をきめたつもりになることは禁物であります。本人はもとより、父兄などにも誤解を與へぬやうに注意したいものです。

## 六、評定結果の運用

### (1) 運用の必要

幼稚園に於ける兒童の性行の評定は、單に幼兒心理の研究の目的に施行せらるべきものではなくて、之によつて保育の方針を處置を定める、いはゞ純教育的目的のための方便であります。評定の結果は必ず保育上に活用せらるべきものであり、これが活用法に就ては、保育の衝に當つてゐる人々の十分なる研究が必要です。

從來種々の調査を試みても、その結果を記入票なごに記入しますご、それで仕事ですんで了つたつもりになつて、あごは戸棚に仕舞ひ込んで、折角の努力を費したものを死藏するに過ぎないなごいふ實狀でありますが、それならば最初から調査なごは斷念して、面倒な手數を可成りの努力をかけるこごは止めて置いた方が利口な譯であります。

これも畢竟、從來の調査では調査結果の運用に就ての研究が忽かにせられてゐた爲であります。折角の結果が出ても之をどう運用してよいものやら不明であり、結局死藏するより外に致し方がなかつたからであります。

私共の最初の出發點は既に述べました通りごこまでも實用本位ごいふこごにありましたので、觀察、評定、記入の他の手續はすべてなるべく簡略にして、専ら保育上の運用の點に念慮を集中いたしました。

理論的研究の立場から考へますご、吾々の觀察の評定記入其他の方法も、もつご詳細で適確な方法を執りたかつたのであります。が、實用ごいふ見地から故意に簡易な方法を選び、寧ろ保育上の對策に於て之を活かす工夫をしたのであります。

尤も次に掲けます保育上の指導要領は決して完全ではありませんが、少くごも實際家の御參考にはならうかと思ひます。保育上の對策は幼稚園の性質、兒童の環境の事情、郷土の特色なごによつても相當に異るべきであります。また問題の兒童の生立ち、家庭狀況、身體狀態、その他の個人的事情に應じても加減せらるべきものでありますから、寧ろそれご

の幼稚園に於て、箇々の児童の特殊事情に鑑みて、夫々の場合に慎重に考究の上、具體的に決定せらるべきであります。たゞかかる場合の参考として、些か愚見を開陳して見たつもりであります。

## (四) 保育の要領

既述の二十對の性行項目の夫々に於て、児童を好ましからざる状態（下又は下の下）より好ましき状態（上又は上の上）の状態へ移すためには、如何なる具體的保育手段に訴へるのが適切でありませうか。この點に關して、一般に試みらるべき陶冶若くは指導の要領を、八人の保姆の先生の御意見を取捨して、例示します。次の如きものがあります。

1、「氣むづかしい——氣輕である」。原因を考へて之を除くことも、なるべく刺戟の機會を少くする。例へば、體質が弱く健康が悪いなごのために氣むづかしい児童は先づ體質の改善、健康の増進に骨を折る。生れつき神經質なために氣むづかしい児童は家庭の協力して自然に接せしめて太い神經を養はせ、つまらぬここに心を勞せさせないやうにする。仕つけが不十分で我儘のために氣むづかしい児童は溫情を以て接し、花奔の世話や人形遊びなどで情操を育て上げて、氣むづかしい芽を矯めてやる等。

一般に朗らかな友達さより多く交はらせて、自然に感化する。

2、「興奮し易い平靜である」。なるべく安易な環境に置き、感情の激發する機會を少くする。反省の習慣をつけて、一歩退いて考へるやうに導く。聲の調子に氣をつけて話してやる。話材に注意して刺戟を避ける。質問に對してもなるべく刺戟しないやうな言葉で緩りさ答へてやる。

3、「何事にも興味が薄い——物事を知らたがる」、原因に應じて適當に誘導し、興味を引出す。特に身體に故障のある児童、知能素質の低劣な児童、内氣な児童なごには夫々他さをはがった指導法をさる。一般には保姆の方から働きかけ、児童が答へられさうなやさしい質問を頻繁にかけて答へさせ、褒めてやつて興味をもたせる。児童の質問を獎勵し、そ

の話は喜んで聞いてやつて發表欲を起させる。興味のある所を探つて之を他方面へも誘導する。なるべく興味を惹きさうな繪畫、玩具、動物等を見せて知識欲を刺戟する。

4、「氣が散り易い——よく注意する」。なるべく解り易いことを面白く話してきかせる。興味をもつ事柄を選んで愉快に作業させる。放心の都度注意を與へ人の話をデッサン聞く習慣をつける。餘り長く一つの事柄に携はらせたり、一つの場所に留めて置かぬやうに注意する。保姆の目の届く所に置いて、時々注意を惹く。身邊に氣の散り易いものを置かぬやうにする。低い聲で短い言葉を云つてきかせて反唱させる。

5、「倦きつまい——根氣がない」。根氣の薄い兒童には先づその體力、能力を考慮し漸次忍耐の習慣をつける。時々目新しい仕事を課して興味をもち續けさせる。根氣のよい子供と一緒に平易な仕事をさせる。退屈しさうになるを保姆が一緒にやつて笑はせたり喜ばせたりして、氣分を轉換させる。保姆自身が仕事に興味をもつて愉快に保育に携り範を示してやる。特に根氣の薄い兒童には當分一つことを餘り長くさせないやうにする。

6、「性急である——落つきがある」。靜に問答なるべくユックリに發表させる。遊びを始める前によく氣分を落つかせる。丹念に仕事をさせてせき立てない様に氣をつける。塗繪の様な單調な仕事を綿密にやらせて氣長の習慣をつける。速度を向ふ様な仕事を避けさせる。比較的根氣を要する仕事を課す。根氣の強い兒童を褒めて他の兒童に暗示を與へる。

7、「元氣がない——元氣である」。身體虛弱のものは先づ健康を増進させ、家庭に面白からぬ事情あるものは父兄と協力して之を取除いてやるやうにする。競争心に訴へて動作に生氣あらしめる。駆けつくら、鬼ごっこ等を過度に互らぬ程度で獎勵する。元氣な亂暴でない友達を選んで一緒に遊ばせる。元氣な英雄のお話をきかせて模倣心を起させる。なるべく團體遊戲なぎに参加させ活潑な動作に興味をもたせるやうに導く。

8、「獨創が少い——工夫をこらす」。多少でも獨創が現れたら賞賛して勵ましてやる。暗示を與へ若くは隆乍ら助力して



仕事を完成させ、完成の快感を味はせる。工夫心の強い児童と一緒に遊ばせ感化を受けさせる。積木遊び切紙細工粘土細工等に於て工夫の習慣を養はせる。

9、「意思を發表しない——卒直である」。先づ保母自身が児童と親しみ合ひ、隔てを置かないで話すやうに導く。やさしい課題を與へ意思發表の機會を多くしてやる。保母の方から気軽に話し掛け氣持をほぐしてやる。お話しごつこをさせ面白く遊ばせて堅くならぬやうに導く。氣の合つた友達をつけ自由に會話をさせて發表の習慣をつける。児童の氣持を察し發表を手傳つてやつて漸次慣れさせる。

10、「言ひなり次第になる——自分の考で行動する」。自分のこゝは一應自分で考へてきめさせる。得意とするこゝをさせて自信をつけてやる。性格の強すぎる子供と一緒に遊ばせるこゝを見合せる。指導的地位にたゞせて適當の援助の下に果斷決行の習慣を養はせる。

11、「ひこの厄介になりたがる——自分のこゝは自分でする」。家庭の人々と協力し、なるべく大人が手傳はないで、自分のこゝは自分で始末をつけさせる。幼稚園に於ても、身のまわりのこゝはなるべく自分でさせるやうにする。お話によつて獨立心を涵養する。時間がかゝつてもじれつたがつて手傳はないで、やり遂げるまでさせて見る。やさしいこゝから始めて漸次むづかしいこゝをも自分で始末をつけるやうに導く。

12、「剛情をはる——すなほである」。その場で叱責しないで、感情の靜まるを待つてやさしくさす。譬話になぞらへて靜に云ひかせる。環境を整理し剛情を張らねばならぬやうな動機を輕減する。友達との共同生活に参加させ自然に自制の習慣をつけさせる。

13、「ひこりほつちを好む——協力する」。最初は比較的にうまの合つた少數の友達と協同させ、漸次友達の範圍を擴大して行く。保母がなるべく接觸の機會を多くして人見知りの氣持を解きほぐしてやる。遊戲作業その他同輩と一致協同す

べき機會を多からしめる。保姆が引立てゝ集團活動の面白味を味はせてやる。

14、「我儘に振舞ふ——秩序を守る」。母親と協力し専ら家庭に於て我儘を放任しないやうにする。行動の都度親切に訓戒する。教訓的な童話をきかせて暗示を與へる。集團活動に於て兒童同士が戒め合ひ、自然に秩序を尊重するに到るやう指導する。甚だしい我儘者の場合には、その兒童の遠慮しさうな友達を選んで一緒に遊ばせ、我意を自ら矯めさせるやうに工夫する。

15、「ふざけたがる——惡ふざけをしない」。ふざけたがる理由を考究しその機會を少からしめる。家庭に於て兒童にからかつたり煽てたり喝采したりしないやうに注意する。惡ふざけをしない兒童を褒めて暗示を與へる。子供らしく上品に遊ぶ習慣をつける。ふざけるここの下品さを教へる。物靜かな落ついた友達をつけてやる。保姆が始終注意して氣をゆるめないやうにする。

16、「ねたみ深い——そねまない」。保姆がすべての兒童を一樣に親切に取扱ひ、偏頗な處置をしないやうに注意する。特にねたみ深い兒童に對しては直接に訓戒なごをしないで、寧ろあつさりご取扱ひ、ねたみを起す機會を少からしめてやる。他の方面で満足の快感を味はせ、こぢれた氣分を轉換させて、和かな氣持を保たせるやうに工夫する。

17、「よくすねる——我慢する」。氣分を轉換させてやる。ひごくすねた場合にはその儘ソットして置いて、落ついた後に穩かに訓して反省させる。その兒童の氣持になつて溫くやさしく云ひきかせる。我慢の出來た場合には褒めてやる。家庭と協力して、すねる原因を輕減してやる。

18、「ひこをいぢめる——睦み合ふ」。友達と一緒に遊ばせて適當の監督の下に睦み親ませる。弱いもの虐めをする機會を與へないやうに氣をつける。意地惡の正しからぬ所以をお話を通してわかり易く穩かに云ひきかせる。年下のものや弱いものを扶ける習慣をつける。本人の氣持を親切に聞いてやつて惡感情を弛緩させてやる。

19、「冷淡である——ひきの面倒を見る」。年下の児童の面倒を見させる。保姆の仕事を手傳はせる。友達同志助け合ひをさせる。草花、人形、動物なぎをいたわらせ、同情心を涵養する。同情心に富んだ児童に遊ばせてその感化を受けさせる。深切な行爲を褒めてやる。

20、「ものを粗末にする——ものを大切にする」。保姆自身がものを大切にして範を示す。家庭に聯絡してものを大切にする習慣を養はせる。持物を調べて時々注意を與へる。ものを大切にすべきことに就て興味深い話を聞かせる。製作の場合に材料の與へ方を適度にし、粗末にさせないやうに注意する。製作の後片付けを手傳はせる。

### (ハ) 處置及び效果

評定せられたる児童の處置はその性行上の特色並びにその程度に應じ、また家庭及び環境その他の諸事情を考慮して、適宜決定せられなければなりません。一旦具體的處置が決定せられました以上は、一應記入票下方の處置欄に記載して、其後の陶冶若くは指導参考に資せなくてはなりません。この處置の記入は評定後間もなくなさるべきであります。その處置其ものゝ當否は一定の保育期間を経た後に児童の性狀の變化伸展に徴して、仔細に檢證せられなければなりません。即ち採つた處置が期待通りの好結果を生んだか否か、不結果に終つたかすればその原因は何處にあるか、今後の處置は如何に改むべきであるか等について、精密に調査し、一方に於て之れに基いて今後の對策を樹てると共に、他方に於て保育の方法そのものを吟味して適當に改善を試みなければなりません。この二重の意味に於て效果の反省は大切でありまして、決して無責任な保育の仕放しに流れることは許されません。

效果の吟味は大體次回の性行評定の機會に於て爲されるのが便利であります。必要に應じてはそれは前に保育上の處置を施しつゝある最中に行つても差支へはありません。この效果の吟味の結果も亦記入票の該當欄に記載して今後の参考に資せらるべきことは勿論であります。

# 幼稚園教育の獨自性に就きて

目白幼稚園 和田 實

家庭教育の缺陷を補ふことが、幼稚園教育本來の使命なるかの如く、考へて居る人が、世間には、相當に、ある様である。斯る考へを以て居る人から見ると、幼稚園の存在性は、主として、不完全なる家庭の存在に、依存する様に考へられる様だ。即ち、幼稚園は不完全なる家庭の缺陷を救済する一つの補助機關の様なものと思はれる譯である。従つて、斯る考への人から見ると、幼稚園獨自の立場云ふものは全くないことになるのであるが、幼稚園は、果して、教育的に獨自の立場のないものであらうか、幼稚園令の第一條には幼稚園教育の目的として次の三項目が擧げられて居る。

一、幼兒身心の健全なる發達を計り、

二、善良なる性情を涵養し、

三、家庭教育を補ふを以て目的とす、

と明記してあるが、此の三項目が各獨立して、都合三個の目的を以て居るものであるか、夫れしも、第三項が前の第二の兩項を包括して居るものであるか、即ち幼稚園教育の目的は三つであるか、一つであるか、文章の上からだけでは一寸不明である。従つて、條文の上からだけでは、之を判斷することは不可能である。併し、虚心坦懷に、法令を通讀した時には、此三項目は並立して幼稚園教育の目的として差支ない様に見える。果して然りとすれば、何も、家庭教育を補ふことだけが、幼稚園教育の目的ではないと云ふことになるから、別に、幼稚園教育は幼稚園獨自の立場に於ける任務を持つて居ると見ても差支ない様である。

併し、第三項が幼稚園本來の使命で、前二項は第三項中に包括されるものと見るに、幼稚園教育は家庭教育に從屬すべきものなるので、其獨自の立場と云ふものは認められる餘地のないものなる。果して、何れが、眞理だらうか。

又、世上知名の士と云はるゝ人々の言説を記憶にたゞつて見るに、幼稚園教育は家庭教育の延長であるに、考へて居る人が相當に多い。時には、幼児教育指導の任にある人迄が、此思想に捕はれて居る人がある様である。斯る人々の思想から見るに、幼稚園教育は、何等獨立の立場を有せざることになるのであるが、吾人は之を疑ふものである。

延長と云ふ意味には二つの場合がある。一つは繼續の意味である。幼稚園教育は家庭教育の繼續であり、小學教育は幼稚園教育の繼續であり、中學教育は小學校教育の續きである。延長の意味を此意味に探るのなら何等差支ないことで、幼稚園教育も小學校教育も、中學校の教育も各其繼續中に各獨自の立場を以て、各其教育理想を打立てることが出来るのであるが、延長の意味を他の今一つの意義に解するときは然うは行かぬのである。今一つの意義とは主義方針の延長即ち主權の延長と云ふことで、法律的用語としての意義を持たせた場合である。此場合に於ては、幼稚園教育者は各家庭の主義方針に追隨して、其教育を施さねばならぬことになるので、到底、自家、獨立の主義方針を立てることは出来ない。一にも二にも各家庭の御意見を拜承して行かねばならぬことになる。實際に斯る馬鹿氣たことの出来るものでないから、此解釋は採る可きものではあるまい。斯様に考へて見るに、名士の所謂、家庭教育の延長と云ふ意味は何んな意味か、頗る曖昧なもの云はねばならぬ。所が、此頗る曖昧な意味が、殆んど、眞に受けられて、關西の某幼稚園では、幼稚園を家庭らしくすることに、大に、努力せられて、室内は疊敷に、先生は袴を脱して、着流しの帶をお太鼓にして居り、先生と呼ばさずに、お伯母様、お姉様と呼ばせて居る所があるに云ふことである。幼稚園教育者の無主義、無定見、無頭腦も、此處迄來るに、寧ろ、一種の滑稽を感じるのであるが、世間は盲目千人である。名士の御迷説を、此處迄信仰して居るものが相當に多いのであるから、困つたものである。

或は又、就學以前の教育は、家庭の責任である。云ふ建前から、幼稚園教育を以て家庭教育中に包含せらる可き性質のものゝ、解釋して居る人もある。併し、是れは又、頗る空漠な思想で、幼稚園教育が、家庭教育から、未だ分派しなかつた時代の思想を其まゝ生かして居る、所謂、未開思想で、今日、既に、家庭教育中から幼稚園教育なる特殊の施設が分派した以上は、其本來の使命如何を検討して、幼稚園獨自の立場が認められるならば之を的確に認識して、其使命を完全に實現せしむるこゝが、吾人教育者の職業的義務ではあるまいか。是を今更、夫れのなかつた昔に返して、幼稚園の存在を無視する様な言論を敢えてする云ふこゝは、文化指導者たる責任ある名士の言動ではあるまい。

要するに、幼稚園教育を以て、家庭教育の補助機關、又は代理機關であるかの如く、考へて居る人が、世間には相當にある。そして、幼稚園獨自の立場を認めない人が相當にあるのは慨はしいこゝ云はねばならぬ。

幼稚園教育は、決して、家庭教育の延長ではない。之を幼児教育の延長云ふのは差支ないが、家庭教育の延長云ふのは當らない。幼稚園教育は幼稚園教育として、家庭教育の主義方針に煩はさるゝこゝなき、獨自の立場を有する立派な教育機關である。

然らば、幼稚園獨自の使命果して如何。一言にして、之を盡せば、幼稚園教育は幼児教育の家庭的雰圍氣より脱出せしめて、之を郷土化せしむるものであると信ずる。

元來、幼兒の生活云ふものは、年と共に其活動の舞臺を擴大して來る。幼兒滿三歳ともなれば彼等の活動は、最早、家庭の狭き天地に踞踏す可き性質のものではない。幼兒の活動慾は家庭内の凡てものを遊び盡くして、今や、園外に逃れ出で、街頭に進出し、遂には郊外に迄活躍せんとして居る。其生活はより大なる天地に擴大せんとして居る。此生活の擴大慾に應じて、其生活を擴充せしむるこゝが、幼稚園教育の施設の一つであらねばならぬ。斯く云はゞ、人或は云ふかも知れない、何あんだそんな事、そんな事は家庭でも出來るではないか、人を雇つてすれば富裕な家庭ならば出來るこゝだ

こ。然り、然うに違ひない。併し、是は一般の家庭には出来ない。そこに、幼稚園の使命がある。

次に、家庭教育は個性發展が主である。早期に於ける幼児の活動云ふものは、極めて、個人的である。所謂、傍若無人の活躍を許されて居つた。幼児は何等己れの周圍に顧慮するところなく、自己の自由なる活動を恣にするこゝが出来た。併しながら、世の中には自己の個性以外に別個の個性がある。又人生の行路には一つの軌道がある可きだ。個性の行動云ふものは、無制限に奔放なる自由を許すこゝは出来ぬ。人は一定の人生軌道に乗り、別個の個性を尊重し之を衝突するこゝなく、共存共榮の道をたゞらねばならぬ。此處に個性は社會的陶冶を経なければならぬ。此個性の社會的陶冶は、前の生活擴充と共に、幼稚園教育の家庭教育に對して有する他の一つの獨自の立場を見る可きものである。是は如何に富裕な家庭も、家庭教育で、出来るものではない。此處に幼稚園獨自の立場は嚴存する。

併し、幼児の生活を擴大するこゝでも、郷土の範圍を超越した大きな擴大ではない。社會的陶冶にしても、郷土的範圍に於て充分に之を達成するこゝが出来る。畢竟、幼児教育は、家庭教育より郷土教育迄擴大して行く所に、幼稚園の使命がある。換言すれば幼稚園教育は、幼児教育を、家庭的雰圍氣より郷土的雰圍氣の中に移す所に其使命を有するものに見ねばならぬ。一言にして云はゞ幼稚園教育は、幼児教育の郷土化にあり云ふこゝが出来る。幼稚園は決して、各家庭の教育方針に追隨し、自己の立場を忘れて、之に阿ゆする必要はない。

尤も教育の郷土化云つても、幼稚園に於て、完全なる郷土教育を施すものゝ考へては早計である。郷土教育を完全に行ふものは小學校の教育である。完全なる郷土教育は、體育にも、知能教育にも、將又、道德教育にも關係が深く、眞に價值的教育を施すこゝの出来るものであるから、中々幼児教育の範圍に屬する幼稚園教育だけでは到底、充分な教育の出来可きものではない。併し、幼児教育が教育の郷土化を計るに計らないこゝでは、小學校教育の郷土化的效果の上に大なる差異を來すこゝは想像するに難くはあるまい。

是に於て、人或は疑ふかも知れない。何事の科學的教授の出來もしない幼兒教育が、何うして郷土教育が出来るか、郷土の自然に就いて、何が教へられるか云ふのか、郷土の史蹟、地文に於て、何等の知識が如何にして與へられるか、不審に堪えない様だ。幼兒教育を理解しない人云ふものは、直ぐに教授の有無で教育の價值を定め様とする傾きがある。教授の研究を以て、教育學の生命として居る現在の教育社會では無理からぬ疑問であるが。幼稚園の教育は、現在の教育學以上に教育の方法を研究して居る。現在の教育學では、德育上に於てのみ情意の直接陶冶を認めて居るが、幼稚園教育では體育に於ても、知能教育に於ても、情意の直接陶冶を認めて居る。幼稚園は何等の知識教授をしない。何等嚴格なる學習作業を課さない。然も、郷土を愛し郷友と睦みて、身心の郷土的執著を、より深く、より堅く、結成せしむることに於ては或は小學校の教育よりも、より深く大なるものがあらうかと思ふ。此誘導的教育の方法は、現在教育學の等閑に附する處で、幼稚園教育者の常に深く、研究する所のものである。

世の小學校教師が、幼稚園教育を理解し能はざる所以も、主として、現在の教育學が、此誘導的教育方法を研究せず、従つて、之に關して教授せらるゝことなき師範教育の缺陷に職由するものと云はねばならぬ。



# 健康の秋

## 幼児の健康増進に就て

東京市學校衛生技師  
醫學博士 岡田道一

「たらちねの心は暗にあらねども子を思ふ道に迷ひぬる哉」——まことに人の親としてわが子の健全な成長を望まぬものはありません。わが子を一人前の男に女に育て上げることは、親としての當然なつこめであると同時に大きな希望であり、悦びであらねばなりません。

斯くわが子を無事に健全に一人前の大人にまで育て上げるためには衛生保健の知識方法を、人の親として必ず一通りは心得て置かなければなりません。衛生保健を等閑にしてわが子の完全な成長を望むことは、あまりにも無暴、無茶危険云はねばならぬ。そして大切な保健の知識方法は單に幼児のみの時代ばかりでなく、進んで小學校の始めの

注意は更なり、中學校、女學校の少年少女期の衛生は實に國民保健の基礎で極めて必要なことであります。そこでそれだけの衛生に注意しますなら、教育に相俟つて身體に精神に一層のよき効果を與へることは明かなことでありませう。

さてこゝに幼児の健康に就て一般を述ぶる事は困難であり、故に幼児の健康の概要を述ぶる事にする。

### 一、斷乳期の榮養

哺乳時代と幼稚時代との境界は即ち斷乳の時期であります。これを世間では動もすれば意味を誤解して、乳汁を斷つのだからと、牛乳も斷つ事を考へてゐる方が多い、これ

は大變な誤ちであつて、母乳を廢すれば其の代用として牛乳は必ず與へるやうにしなければなりません。さてこゝに乳に就て注意し申し上げたいのは、母親の乳汁は斷乳時期に至つては、左程の滋養のあるものでなく、授乳したころで完全の榮養を見に與へる事が出來ないのであります。こゝを忘れてはなりません。

#### 1、牛乳の薄め方に就て

牛乳で子供を養ふ場合八ヶ月までは薄めて飲せねばなりません。牛乳には蛋白質が多く大きな塊になりますから是非こもこの必要を生じます。うすめ方ですが何も規則通りにさう心配はいらぬものです。先づ薄め方の標準を示します。

	牛乳	湯
一ヶ月内外	1	2 (三分の一乳)
三ヶ月	1	1 (二分の一乳)
五ヶ月	2	1 (三分の二乳)
七ヶ月	3	1 (四分の二乳)

そして七ヶ月目より全乳とするのですが四分の三乳を用ひ

の方がよいので六ヶ月目から全乳として戴き度いものです。然しこのやうに薄めますと、蛋白質の分量は丁度よくありませんが、脂肪、含水炭素の量が不足になり、之れを補ふことが必要であります。脂肪を補ふ事は難かしいのですが、含水炭素を補ふのは容易で、砂糖を入れればよいのであります。

#### 二、間食に就て

小兒が間食の時に與へる菓子は何なるものがよく、如何なる成分のものがよからうか、勿論衛生的のもの云ふ事は申すまでもない、その菓子の成分に就て、是れは蛋白質で製造したフワ／＼の軽い軟かいのが良いのです。

總て食物を選択するは保育者の責務であり大切な事であるから、そこへカステラがよいといつても駄菓子かと思ふやうな、カステラ名ばかりのものもあつてこれ實に不衛生的なこゝ驚くべきものがあります。

小兒は多く果實を好くものですが生後二三年に達せざれば往々下痢し易いものでありますが、便秘し易き子供には、新鮮な果實を毎日少量づゝ與へたならば、便秘の常習は治

つて了ふ程であります。この便秘が子供に及ぼす悪影響は大なるものであつて、親として常に之れに注意せねばならぬ。

### 三、衣服

衣服の元來の目的は何んであるか云へば一は外界から入つて来る温度と毒物の防禦であつて、一つは自分の身體から温度を外に出すのを防ぐのであります。この點に於てさうして無益の表飾に衣服は用ひる要がありませんか、それは親心として止むを得ませんが、輕快にして自由に駆けだしたり、又は運動が自由に出来るやうにして戴き度い。

本來衣服は氣候、時季、年齢、體質に適合して着るべきものであります。子供のうちから無暗に厚衣に慣らすこと云ふ事は、決して健康の基礎を形造るものではありません。この時代即ち三四歳頃より薄衣に習慣づけることが肝要であります。あまり厚着をさせること、熱感を覺えて甚しく發汗する恐れ、關節が容易に運動されぬため、身體は虚弱になるのであります。

最近洋服が多く、これは動作に於ても至極結構な事で

あります。それで身體に壓迫を與へないで又呼吸に差支へないものなら何んでも結構であります。又履きものですが、例へ低くとも齒のある下駄は穿かせぬ様にし、そこで靴ならば足をそういためる事もなく、尙歩行にも動作にも總て快活に出來て、何の位發育上利益であるか知れない、それで靴も軟かい皮で作つた輕いもの等を選ばなくてはなりません。

さて東京あたりの氣候ならば一年中股引を穿かせる必要はありませんが、併し洋服なら格別の事です。誤解のないやうに、尙感冒を引き易い小兒なら必ず肌へ毛織りの衣服を着させるやうに、殊に體質が虚弱であれば其邊を克く斟酌して保育する事が肝要です。

### 四、腦の衛生

精神の養生は小兒の時から親の深く注意して適當の方法を講じなければならぬものです。幼稚兒時代の頃から身體の健康に伴つて、精神の完全に發達させる事を心懸けなければなりません、三ツ子の魂百までも云ふ事があるこれは幼稚時代からして善良なる精神の修養をさせねばならぬ

ミ云ふ事に外ならない、善き習慣も悪き習慣もこの時代に忽ち染り易く、殊に母親の保育の任に當るものが、幼児に  
よき習慣悪しき習慣を付けるもこの保育者一人になるの  
あります。

家庭の善良なる習慣は小兒の精神を修養するに最大なる  
感化力を有してゐるものであるから、總て両親が先きんじ  
てよき模範を示さなければなりません。

然らば精神の養生法として如何なる事が最も小兒を慰め  
るのでありませうか、郊外散歩或は天氣のよき日野邊に出  
て思ふ儘に運動させ新鮮な空氣を吸はしめる事にありま  
す。

## 五、身體の發育に就て

數へ年六つになつたら幼稚園に上る事をお推めいたしま  
す。最も四つぐらゐで幼稚園に入園する方もありますが、  
小學校へ上る丁度一年前、保育さいふ事も理想的でありま  
す。

最近幼稚園兒の現在多い年齢は數へ年六歳が一番多くこ  
れ等のお子さんの平均の身長、體重さいふものは凡そこの

位であるかさいふ事を知り且それミ比較して自分の子供の  
身體の發育概評が甲であるか乙であるか丙であるかを知る  
こゝも大事であります。その標準は何によつて決るかさい  
ふに毎年幼稚園でも身體検査が行はれますが、その平均の  
數字は一々文部省へ報告されてゐませんが全國平均さい  
ふものがまだ分らないのでありますが次に示した四、五、  
六歳の身長及體重の數は東京市の市立幼稚園で實施され  
た平均であります。

年齢	性別	身長	體重
三歳	男	三・〇五	三・六五
	女	二・九五	三・三六
四歳	男	三・一四	三・七三
	女	三・一六	三・三九
五歳	男	三・二八	四・〇三
	女	三・二五	三・七二
六歳	男	三・四三	四・三四
	女	三・三六	四・二七
七歳	男	三・五二	四・六六
	女	三・四八	四・五〇

それでぎなたでも自分の子供の身長、體重ミ此表の數字  
ミを比較して御覽になり、身長體重が各々の數字が自分の

子供の年よりも一年上の年のものより數に優つてゐるものが發育概評が甲であり、それに對して身長、體重の一つでも、一年下のものゝ數よりも尙少ないときには丙といはれ、其の間の數であつたなら乙即ち平均に近いものと言はれていゝのであります。この内丙のものはなるべく榮養物（牛乳や鶏卵や、バター、クリームなど）幼兒の發育を促すものとし

## 幼兒體育の話

### 一

今から十數年も前のことである。

そのころ私は或要件で、度々東京女高師の幼稚園に倉橋さんを、訪問する機會を持ち、従つて幼稚園はどんなものであるか、また園児の生活がどんなものであるか、を一こし通り見聞することが出来たのであつた。

或日のこと、倉橋さんは、私に園児の使つてゐる大きな積木を見せて、これが近頃幼稚園で使はれる積木です。抱

て一番よいのであります）を與へて發育を圖らねばいけないのであります。

さて幼兒の健康増進に就てほんの大體を述べたのであつたが、言葉の足りぬ處はそこを補つてゐたゞき、これが少しでもお子供様の健康を促す事が出来たら私の悦びとするところであります。

## 岩 原 拓

えて持ち運ぶのです。一人で運ぶのもあれば、二人で持ち運ぶのもあります。眞四角なもの、長方形なもの、いろいろあります。説明された。そして、そうした積木を初めて見て、びつくりしてゐる私を、振返り乍ら、倉橋さんは、更に説明を追加された。それに依るに、子供はこの積木を、とても面白がつて積み上げるそうであり、小山もつくれば、家も作り、段々もつくれば、橋もかけるそうである。時にはその上を歩き廻つたりするそうである。そして

從來の積木は、室内のものであるが、新しい積木は、主に戸外でつかはれる。また從來の積木は、指先きを働かせるだけで、従つて筋肉も細かい筋肉を働かせるこゝこなり、それに應じて、神経中樞も細かく働くこゝこになるのであるが、新しい積木は、腕全體こいふよりもむしろ身體全體を働かす、従つて筋肉は大きな筋肉を、またそれに應じて神経中樞も廣く働くこいふこゝこである。そして子供、わけでも都會の子供には、細かい筋肉を働かせるよりは、大きい筋肉を働かせる方が必要だこいふ意見を以つて、その結論こされた。

これはほんの運動場の隅に立つての話であつたから、今では倉橋さんは、すっかり忘れて居られるかも知れない。しかし私は、それを今でも思出すほゝに、よく覚えてゐる。それは以上の短時間の立話の中に、幼児の體育に就ての要點が澤山含まれてゐるからである。殊にそれが積木こいふ幼児遊戲の至寶に關聯しての話だから甚だ面白いせいでもある。

## 二

何しろ、幼児は花ならば、蕾の前の芽にも比すべきものである。いはゞ未熟の人間である。従つてその生活も、極めて原始的で笑ひ、泣き、遊び、喧嘩、食べる、眠る、おしっこをする、いろ／＼のこゝこが、混然こ集まつてゐるに過ぎない。

その中で、最も大切なこゝこ、換言すれば、將來の人間性を約束するに最も必要なものは、遊びである。遊びの良否、遊びの巧拙、それは將來の人間性をつくるのに、大きな關係をもつてゐるのである。更に極言すれば、幼児の教育は遊びの教育であり、遊びの指導であるこもいへる。世間では幼稚園の先生は、子供の遊び友達に過ぎないこ、惡口めいたこゝこをいふが、子供の遊び友達、子供の良い遊び友達こなり得た先生は最もよい先生でなければならぬこ私は信じてゐる。そして遊びの中には、智の指導、徳の指導、體の指導が、混然こ入れ交つてゐるのである。遊びの中に、知を指導し徳を指導し、體を指導する指導者があつたならば、それこそ最も良い指導者こいはなければならぬこ思ふのである。

そこで、前に述べた倉橋さんの話をよく味つて見る。積木といふ知的遊戯の中に、體的指導の要素が、多分に織りこまれてゐる。いふに興味を持つ。知的指導と體的指導の一致といふことは、極めて貴重なことであつて、これを端的に云ひあらはしてゐる點は第一に注意せられるのである。第二に積木を室内より戸外へ出したといふ話。これは體的指導の見地から見、至極意義深いことである。幼児體育の最高峰は幼児に生命の母である太陽の光と大氣中の酸素を與へることである。これは最も進歩した衛生學上から切に説かれてゐることである。第三に注意すべきことは、愉快に遊ぶといふ話である。人間は遊ぶこと愉快といふことを完全に結びつけることに依つて、一つの大きな人間の完成が出来るのである。この原則が常に幼児指導の上に現はれるならば、それは體的指導の見地から計り得なく、情的指導の上にも大きな收穫があるわけである。いは、情的指導と體的指導との結合である。第四は、小筋よりは、大筋を養へといふ話である。これも幼児の體的指導を

しては、一つの根本原則である。兎角從來の教育的指導原理は、大筋使用を輕視して、小筋使用を重んじ過ぎた弊に陥つてゐる。殊に幼児に就ては、それを充分矯正して、大きな筋をゆつたりとつかはせることに、注意することが、何より肝要である。第五は神經中樞は、細く働かせるよりは、廣く働かせよといふ話である。これは筋肉の場合と同じやうに、神經中樞を狭く働かせ、それに應じて小筋肉を働かせることは、結局人間の線を細くすることにあつて、決して幼児の指導としては取るべき策ではない。成るべく神經中樞は、これを廣く働かせて、大きな筋肉をゆつたり働かせ、人間の線を太く仕上げる様に仕向けて行くことが最善の策であると思ふ。

以上、思ふがままを書きつけたに過ぎないが、幼児體育の一參考ともならば、筆者は大に満足する。

# 幼兒の身體教育に對する考察

東京女子高等師範學校助教授

宮 田 覺 造

我國の國民に對する身體教育として最も研究を遂げ徹底的に勵行を圖らなければならぬ時機は、幼兒期、青年期である。青年期の教育はしばらくおき幼兒期の身體教育に就いて二三の卑見を述べ實際家の參考の資料にしたいと考ふるのである。

## (一) 幼兒期の運動

吾々の生活に對する環境は文化の進むにつれて益々健康生活に對する諸要素から益々遠ざけられて行くものである。殊に幼兒の生活に對しては、新鮮なる空氣、輝ける太陽の中で「自由に運動したい」といふ彼等幼兒の願望に對しては到底満足させる事が出来なくなり、殊に都會生活に於ける幼兒の生活實狀は益々峻烈であつて、神經は強度刺激され運動に制限され、日光と空氣と自然的環境からは益々遠ざけられ幼兒の生命は奪はれんとしてゐるのである。

この奪はれんとした生活環境を打破し、求めつゝある願望に對してこれを與へ、幼兒の魂に對して眞正の發育發達を遂げしむることが眞の幼兒教育の本質ではないかと考ふるのである。

眞に心から求めんとする願望は何であらうか、言ふまでもない自然的な環境の中に自發的な運動を喜んで求め、好んで動くといふことが幼兒の全生活であり全生命である。伸び行く魂が眞にほがらかさを感じるのは此の生活であり、この時であると思ふ。

自然的な自發的な運動は遊戲であつて、衝動が體的の活動となつての表れは遊戲の生活である。従つてこの遊戲の生活には計畫もなければ、目的も持たぬものであつて、衝動的な體的活動それ自身に深い興味と關心を持つものである。自然的に自由に遊戲することに依つて身體の機能及



び精神活動竝に道德觀念の發達を遂ぐるものである。

幼兒の生活内容といふものは殆んどこの遊戲の生活であつて、指導者こそ其の眞剣なる考察を遂げなければならぬところはこの生活に對する考究で、天性のまゝに活動せんとする生活内容を如何に指導し訓練して行くかといふことにあるのである。

幼兒の想像は實に強烈なるものであつて、衝動となつて表現され直に動作となつて表出され夢想の世界に適合するものである。毎日の身邊にある机や椅子も山となり谷となり、人となり動物となるものである。戸棚に飾つた人形も毎日遊び戯るゝ友達となり生命ある人間となつて談笑するゝものである。又築山の木の根も大蛇となり、動物園のラクダとなり、彼等のもつところの思想を具體的に表現しやうとする欲求は極めて強大なるもので、あらゆる幼兒の對象となるものはその生活の中に表れ、日ごとに擴張され伸展されたる世界は生活活動の内容を形成するものである。かく想像による刺激が身體的活動、精神的活動となつて、自己の思想を具體化せんとする欲求と合流し、経験を豊か

にし、觀察を鋭くし、自己の世界を擴大することが出来るものである。

かくして進展するところの幼兒の遊戲生活は、細心の注意のもとに正しい方向に發展させ將來完全なる人としての教育に對して貢獻させるやう仕向けなければならないのである。

現在我國に行はれてゐるところの幼兒の運動生活、遊戲の生活といふものは、はたして此の點に着意されてゐるものであらうか、學校生活、園内生活に對する全體生活に就いては、幼兒の眞生命を見出すべく着想されたとしても、身體教育としての運動生活に就いては、組織系統なる科學的基礎の上に立脚された點が乏しいのではないかと考ふるのである。

身體教育としての直接目的たる幼兒の運動は正常なる發達を遂げしむるために、運動機能、生活機能、神經機能を充分に動かせしむるものでなければならぬことは、第一義におかねばならぬものである。情操の陶冶、感情の洗練、動作の優差も亦必要な事ではあるけれども、生物學的立場

から見たところの生活力の旺盛な、活力の富んだ力の強い  
こいふ事、よく意志の命するまゝに動くことの出来得て、  
四肢五體を思ふやうに動かすことが出来て活動目的を達成  
するこが出来得るこいふが發育の旺盛なるこの時機の實  
に重要なこである。

従つて幼兒の身體教育として最も重要性を持つ點は、身  
體の機能の完全こいふこになるのであつて、遍智的教育  
の餘弊を受けた主情主義の運動を通しての身體教育に對し  
ては根本的改善を施し理想のたて直しをせねばならぬこ  
である。

## (二) 幼兒教育に望む今後の運動

幼稚園の運動こいへば、直に唱歌遊戲、表出遊戲、童心  
遊戲、表情遊戲、動作遊戲、律動遊戲こいふて名稱の相違  
こそあれ、組織さるゝ系列こいふものは殆んど同一である。  
詩歌を通しての感情の表現動作であるが、はたして童心に  
ふれた、遊戲生活としての價值を見出すこが出来得るで  
あらうか、近來種々雑多な創作物を見せつけられるので益  
疑惑を感じ身體教育としての價值を發見するこが困難な

實狀におかれてゐるのである。

子供のために造られ歌曲であつても、幼兒の歌ふこきの  
感情と大人の歌ふた心情とは異なるもので、子供の心さな  
つて振附けた表現動作も大人の主觀から想像して生んだも  
のであるから必ずしも悉く合致するこいふべきものでもな  
い。かくして唱ひかつ遊ぶところの遊戲が幼兒の身體教育  
として全部の如く考へらるゝこは大なる誤解であつて、  
幼兒の遊戲生活こいふものは、決してかくの如き單純なも  
のではない、唱歌遊戲の無價值を論ずるものではないが、  
遊戲室での指導者のついた遊戲としての生活よりは指導者  
のつかない廊下で八釜しい程走り廻る自然的な遊戲や、教  
室内の惡戯こさや、庭園内の築山や砂場の中での子供同志  
の遊戲が、人間教育の完成に對して大なる價值を持ち來ら  
すのではないかと考ふるのである。

形式的技巧的な動作や、物真似的な手振り、身振りは、  
幼兒の心にうつす事が少ないものであつて、兒童の近い經  
験に對して結合したところの表現動作こいふものには最も  
興味も多く満足を與ふるものである。しかもこれらの動作

が活動的で、運動量が充分であるときには、活動欲、運動欲を充たし喜んで求め楽しんで遊ぶものである。

今後の幼児身體教育に望むところのものは唱歌遊戲萬能をすて、幼児の遊戲衝動中に眞義を見出し、彼等の近い經

## 幼児と日光浴

東京大森めぐみ幼稚園長 岩村清四郎

日光浴と云ふ事を、素肌を太陽に曝す。と云ふ意味丈けに取るに幼稚園からは相當縁の遠いものになりませうが、

そうでなく、幼児を太陽に親しませるに云ふ意味なら之れ位易い又大切な事はありますまい。

今日の幼稚園——と大まかに呼びかけたら云ひ過ぎになるかも知れませんが、少く共都會の幼稚園は「幼児と日光」と云ふ事にきれ丈け注意を拂つてゐるか私は聞いて見たいのです。初代幼稚園に於てフレーベルは、雨の日を除いては殆どの時間を戸外で過したことは忘れられてゐはしまいかと氣遣ふものであります。餘りにお仕事は、遊戲が保育

驗に立脚し、季節的な運動と生活環境とを考へ、組織的に考案されたる運動を系統的に配合し、極めて自然にしかも自由に彼等の遊戲生活の中に結合され、身體機能の合理的な發達發育を遂げしむるこそが、幼児教育の眞諦である。

の本体になり過ぎてはゐはしますまいか。

### 日光浴

私はさうかして幼児の皮膚を空氣と日光に曝したいと思ひまして色々な工夫をして見ました。其第一は日光浴であります。南向きの庭に三間三間のコンクリートの廣場を造りました。北の方は園舎に遮られて北風は來ません。西側には八尺高さの風切りを立てました。南と東丈けがあいてゐるのです。コンクリの上に相當厚いゴザをしいて用意します。午前十一時が一番よいのですけれ共、保育の最も大切な時間なので、其時間を取り切れません。遂にお食後と

云ふ事になります。お食事が十二時半に済んで、一ミ休みして一時から致しました。

「日光浴をするからおべべを脱ぎませう」

ミ云つて私が一番先きに脱ぐのです。元氣のいゝ子供はサッサミ大喜びで脱ぎます。男の子も女の子も皆上體丈け、即ち臍まで出すのです。列を作つて並び互に影にならないやうに坐らせませう。一三分もするミ自然に落付いて來ますからそうするミ、

「片一方のお手々で、片一方のお手々をなでなさい」

ミ云ふ號令で一二々々ミ元氣よくなでさせませう。一ミしきり、なで終るミ。

「こんどはつちの手」

ミ云つて、あべこべの手を摩擦させませう。次に、同じ方法で兩手で自分の胸體を摩擦させ。次に、前の人の背中を互にこすらせませう。此時は實にクライマックスで一同大喜びです。之れが一通り済むミ、今度は太陽に向つて裏向けに坐らせ直します。そして同じミを繰返させませう。が此時間約十分から十五分であります。之れが済むミ直ぐに保

姆が手傳つて着物を着させませう。

僅に十分か十五分ですけれ共、之れをやつた後の氣持ちは、やつた事のある人でなければ分らない、さわやかな氣持ちです。

之れは十月位から始まつて十一月、十二月一月二月ミ、ずつミ續けるのです。「十二月一月の寒氣の最中にやれるか」ミ質問せらるゝ方があるかも知れませんが、私は何の躊躇もなく、「やれます」ミお答へします。

最も、右申したコンクリの上では嚴寒に入つてくるミいくらお天氣がよく共、風が強いミ流石に寒いので、私は、自分の住居の方に、お座敷の先きへ二間の七尺の日光浴道場をつくりました。硝子戸四枚共皆雨戸式に一方へ繰込めるやうにしました。そうするミ、座敷の出先きですから、天井もありますので、外は如何に風がすさんでるても吹き込んで來ません。

日光浴の時間は大體右に申したやうに、十五分限度ですが、書物や何かを見るミ、最初は手や足の先きを五分間曝せミ云ふやうに指導してありますけれ共、あれは病人の事

でありまして私共のは健康児ですから大部話が違ふと思ひます。

最も着物を脱がせる前には整列をさせて、私の額ミ子供の額をつける方法によつて熱のあるか無いかを確かめます。私の額は熟練の結果、殆ど體溫計ミ同じ位に云ひ當てます。そして微熱のある子供さんは裸にしないのみならず、改めて一分計を入れて體溫を計らせます。

こうして、熱のある子供を警戒することには甚だ簡単ですが、困るのは臆病な子です。「裸になれば風を引く」ミ毎日のやうに云ひ聞かされてゐる子供は、仲々キモノを脱ぎません。此種の子供は一番、日光浴が必要なのですけれ共、家の人も恐がるし、當人も嫌だミ申すものですから、遂ひ其まゝにしてしまふ外ないのです。甚だ残念な事です。も少し、手でもあれば何ミか出来ると思ふのですが、之れの出来ない子供が、何時も十人位はあります。實は此子供をさせてやらないならば意味がないのですが、私共の幼稚園は虛弱兒本位の養療院ではないのですから、見すく見逃してゐます。

其結果は、日光浴なさやらず共よい位な元氣な子が一

番先きに眞裸になるミ云ふ事にもなりますけれ共、六十人中、五十人が日光浴をやれば、先づノゝよいミしなければなるまいかと思つてゐる次第です。

日光浴をする日は必ず日光直射の日丈けを選ばねばなりません。之れが仲々得易くありません。秋の小春日和、正月の無風の日など申分なく樂しめますが、此様な日の少い事を残念に思ひます。それにいくら天氣がよく共、私が内に居て、先達ミなつてやらないと思ふやうに出来ないものですから、其日も又一つの制限になります。

最後に皆様のおきゝになりたい事は、

「それをやつたために、ぎれ丈けの効果があつたか」

ミ云ふ御質問ミ存じますが正直な所統計も何も取つてられません。「日光浴をやる前よりもやつた後はお風を引かないやうだ」ミ云ふ言葉は親からも聞き、私共もさう思つてゐますが、それを報告用に統計を取る術を知らない事を残念に思つてゐます。けれ共惡からう筈はありません。

## ○スノコ

何處の幼稚園に行つて見てもお庭ミお内ミが餘りに整然ミ區別のついてゐる事は私の注意を引きます。庭に出るに

は必ず下駄又は靴を履きかへなければなりません。ブランコに行くのにも迂り臺に行くのにも一々履き物をはきかねば行かれない處から遂ひ子供達は因循になつて外へ出たがらなくなる。私共は幸に東京の郊外で、ふんだんの地面を持つてゐますから前項で申上げた三間に三間のコンクリートの廣場から續いて「子供の家、ブランコ、迂り臺、プール等を覆ふ六間に四間位のスノコの大廣場を作つてゐます。スノコ云ふのは雨の降つた時も雨ざらしにして置く間のすいた板の間です。コンクリからスノコの上は、上は履きのまゝで出られるのです。雨さへ上れば三十分の後は完全に表に出られます。

### ○芝生

同じ主意から五間の七間程の芝生をスノコ續けて置きます。芝生の上はカバーをはいては出ることは許されませんが、裸足なら其まゝに走ることを許されてゐます。ですから、子供が裸足でさへ居ればお庭は誠に廣い、氣持ちのよいものになります。之れ丈けの設備には相當のお金と氣苦勞がいりますけれ共、子供を日光に曝す云ふ主意からは當然然るべきものと思ひます。お金がゐるを申しまし

たが、右申した六間に四間のスノコ（日本杉大拔で張りつめ）五十圓程です。手入れさいよければ五六年は持ちます。芝生は特に金はいりませんけれ共、之れを年中青々として置かうと思へば相當専門的の知識を子供を育てる程の注意がいります。

其代り、之れ丈けの、内から續いた庭があるを子供が活潑に戸外に出ますから保育は非常に樂です。

### ○裸足

裸足は私の最も主張する所です。

『ハダシの子供は丈夫になる』

云ふことをモットーのやうにして獎勵して居ます。九月一杯は誰一人カバーをはくものはありません。十月も然ります。それでも十一月になるを半分ははきます。昨年の如きはさうく冬中カバーをはかなかつた子供が三人居ました。私の方の母の會でカバーを作つて全國の幼稚園に賣り出して居乍ら、自分の所ではカバーを履かないことを獎勵するのは一見矛盾のやうですが、事實履かせないことを獎勵してゐます。之れやはり素肌に空氣と日光の原理から來てゐます。

# 噫 巖谷小波先生

葛原 し げ る

昭和八年九月四日午後四時の東京中央放送局の、ラヂオニュースが、先生の容態が絶望状態に陥つたことを全國に報告した。私は、岡山縣金光町の姉の家に一泊中で、浴室から出るこ、甥が、急いで來て、

「小波さんが、絶望だこいひますよ」

こ知らせた。そして、要件をも、そこくくに、歸京して、やつこ、六日午後、青山會館に於ける告別式に間に合つた。多くのコードモ會、音樂會でのみ知る青山會館の大講堂、第三回の私の作品發表大會も、開いた事のある、華やかな思出懐しい大ホールが、今日は、いこしめやかに、哀しくも、黒い色に塞かれて、黒リボン付の夥しい花環が、祭壇さいはず、廊下さいはず實に數百基、所狭く供へられてゐる。而も其等はみな、朝野の名士や、あらゆる諸團體からのものばかりで、凡ての社會層に縁故の深かつた故人の佛を物

語つてゐる。來弔者の數の多いこも各方面の名士の多かつた事も今更ではないが、稀に見るこころであつた。しかも、中には、兄妹らしい少年少女や、親子づれの人々もあつて、ほろりこさせられた。

「お伽のをちさん」「童話の開拓者」「コードモ界のキング」、等々、みな美はしい別名を冠して、先生の訃を傳へる大新聞の段抜記事は、恐らく、全國の各家庭の、父も、母も、姉も、兄も、弟も、妹も、ひこしく、溜息を伴つて讀んだこころであらう。

ほんこに、埋めるべくもあらぬ大きな空虛が、日本に、日本の文壇に、ここに、コードモの世界に、あいてしまつたのである。あゝ、

## 一、先生の學歴

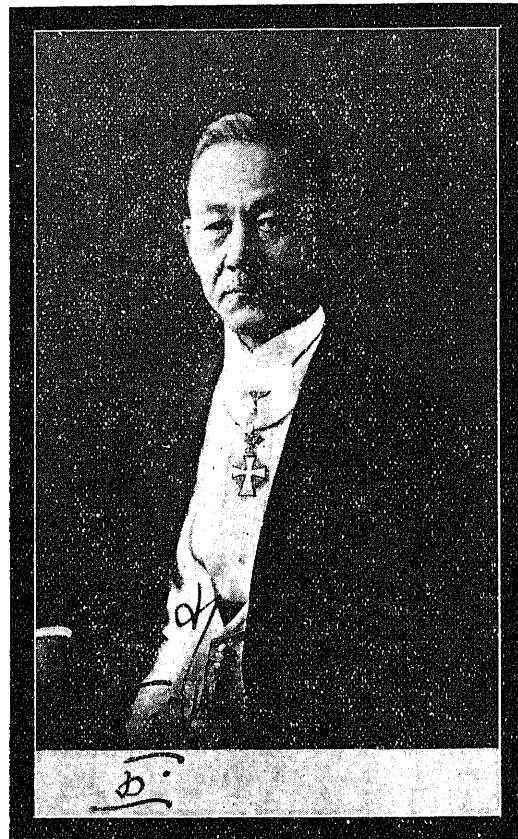
先生は、明治三年六月六日、「東京麹町區平河町の三軒屋

の父の邸で生れたのであらう」を自分で、「おこぎ四十年」の中に謂はれてゐる。先生は、三男であるが、母君は、同年十月一日に他界されたので、先生は里子として、非常に親切な仕立屋に預けられ、その家主なる長松男爵家からも、特に寵愛を受けられ、また、歸國後、二度目の母君も知らずに成長して、十五六歳の時、始めて、繼母に分つても少しも、その氣がせぬ上に、好いお祖母

様があつて、昔話を話して下さつたり、碁石のならべ方、歌の作り方などを教へられた。別に、十歳前後、父君より漢詩の作り方も教はり、また、十一歳の頃には、下谷の鹽谷

青山先生、十六歳の頃には、牛込の川田發江先生の塾に寄寓して、半歳位づゝでも、他人の飯を食ひ、十八歳から二十一歳までは、小石川の杉浦重剛先生の稱好塾にをられた。

一方、八歳の頃、



松野林學士夫人クラ女史にドイツ語を習はれた事もあるが、今の麹町小學校(當時、平河學校)、神田の訓蒙學舎、外神田の醫學豫備校を経て、獨逸協會學校の卒業が、十九歳の時、進んで其の専修科に入つて二ケ年、法政經濟を學ばれたが、性に合はないので、後は、文學の獨習に志さし支那小説を森槐南先生に、ドイツ文學を北尾博士に學ばれたのである。



## 二、兒童文學に志すまで

先生自ら曰く——一體、私の家は先祖傳來江州水口藩の藩醫である。それで、父の前半生も、その家業をこつて居たのだが、自分が官吏（大政官の内吏、後書記官）になつてしまつたので、子弟のうちの誰かには、それを繼がせなければならぬまいと、その白羽の矢が私に立つたのだ。

そのために、まだ小學校へ通つて居る間から、ドイツ語を習はせられたり、その向の學校へ入れられたが、一方、祖母や其の侍女や、書生達から、はやく文學に親しむ様に仕込まれたので、少し醫者がいやになつて、好きな道へミタごりたくなつて來た。

所が長兄の立太郎が、これは工學博士で大學教授を勤め、三十五歳で死んだのだが、頗る嚴格な質だつたから、中々、私の志望を容れてくれない。何でも醫者になれば、それが厭なら法律をやれといふ。

それなのに、又この兄は、そのドイツ留學中、私に、クリスマスの贈り物として一冊の美本を届けてくれた。それは、オットウの世界童話集である。貰つた時は、まだ子供

だつたから、挿畫を見て娛しむ許りだつたが、やがて是が讀める様になるこ、さあ面白くてたまらない。たゞさへ圖書館物や貸本で、かうした物になじんで居た私は、この本から益々興味を感じて、時々、その中の短い物を覺束なくも譯して見たりする。

それをまた、兄は、むしろ喜んで見てゐた。これは語學の練習としてでは有つたらうが、私はまた好い氣になつて、又しても學課を餘所に、かうした事にうき身をやつす。するこそれが兄の氣に觸つて、ある時は、折角書きあげた原稿を、目前で引き裂かれてしまつた事なごもあつた、そのため、私は幾度、暗涙に咽んだか知れない。

その内に杉浦先生の塾に入るこ、先生は、あゝいふ方だつたから、よく私の心事を解してくれて、それ程熱心なものならば、寧ろ好きな事をやらせたがよいこ兄を説いてくれたので、やつこの事で願が叶つて、始めて公然、文學を研究し得る事になつた——（お伽四十年）。

そして、十八九歳の時、始めて、かの硯友社同人となり、

尾崎紅葉、石橋思案、川上眉山なごも相知て、後には、同

じ稱好塾生だつた江見水蔭を誘つて同人ミした程であり、  
稱好塾では、大町桂月ミ共に、三羽鳥ミ呼ばれてゐた。

かくて、十九歳の時、硯友社の機關誌「我樂多文庫」に處

女作『五月鯉』を、二十一歳の

時、新著百種に創作『妹脊貝』

を發表したが、兄から、何か

先人未着手のもので後世に残

り得るものを書けないかミ、

苦い顔をされて發憤して、遂

に少年文學に目をつけて、『黃

金丸』を書かれた。

### 三、少年文學處

#### 女作「黃金丸」

先生二十二歳の春、博文館

は、東京に於ける唯一の大出

版書肆であつたが、その大橋新太郎氏は、別懇であつた

ので、その奨めもあつて、『黃金丸』を發行されたミころ、

非常に好評であつたので、かねて、喧しい兄君も、ニコ

りされて、間もなく他界されたミか。

この「黃金丸」ミいふものは、少年文學ミいひ、お伽噺ミ  
はいへ、大人の讀み物ミしても、よい程のものであつて、

先生自ら、

「八犬傳ミ狐の裁判ミを、

なひまぜにした位の陳腐

なもののだが、これでも當

時は珍らしかつたので、

小さいながらも、礎石を

すえ得たのであつた」。

こいつてをられる。この

礎石ミは、先生自らの少年

文學建設の礎石ミもなつた

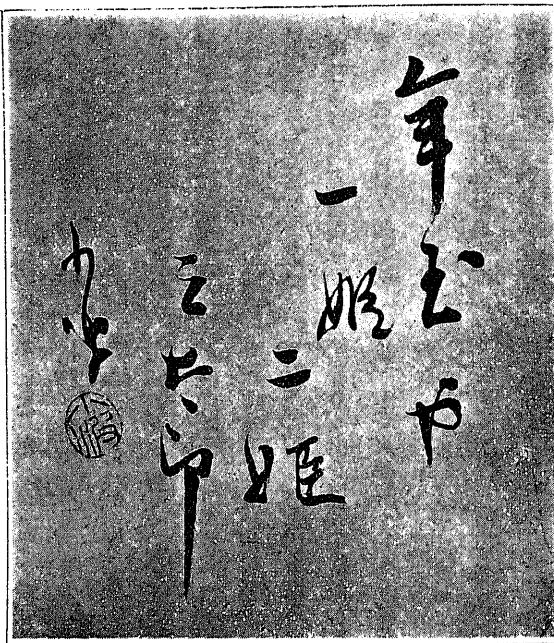
のだが、それを第一編ミし

て當時の文壇の歴々が次々

に筆をミつて、シリーズミして、第二編に合計三十篇（三十

冊）を逐次刊行しうる礎石ミもなつたのであり、更に、この

少年文學が、出版物ミしても成功したので、博文館は、更



に「日本昔噺」二十四編を、四年間に完成する礎石ともなり、更に進んで、「世界お伽噺」百篇及び「世界お伽文庫」五十篇完成の礎石ともなつたのである。又別に、雑誌「少年世界」についで「少女世界」「幼年畫報」及び「幼年世界」刊行の礎石ともなつたのだといへるのである。

そも、その「黄金丸」といふのは、虎に殺された犬の遺兒が、牛に養育されて力強くなり、他の犬の助太刀を得て、狐や狼の邪魔はあつても、遂に首尾よく仇討をする筋であるが、その文體が、全然、子供向でなく、用語の六かしさも、子供に分るものではない。その冒頭からして、

「むかし或る深山の奥に、一匹の虎住みけり。幾星霜をいくさしづきや經たりけん、軀く尋常の積よりも大きく、眼は百鍊の鏡を欺き、鬚は一束の針に似て、一度吼ゆれば聲山谷を轟かして、梢の鳥も落ちなんばかり。一山の豺狼麋鹿畏れ従はぬものもなかりしかば、虎はますく猛威を逞うして、自ら全眸大王と名乗り、數多の獸類を眼下に見下して、一山萬獸の君とはなりけり」。

といふ美文脈のものであり、先生自らもいはれたまはり、

八大傳もさきの行文用語である。そして、その虎の氣入りの狐の名が、聽水であり、犬には、月丸と花瀬といひ、その子に黄金丸が生れ、その養ひの親に、牡丹といふ牝牛があり、その雄に文角といふがあり、義侠の狩犬に鶯郎があらはれ、兎に、朱目の翁といふのがをり、黒花といふ惡猿もをるいふ有様。以て、他の用語なども想像出来ると思ふ。

此の如き「黄金丸」が、一般讀書界に與へたショックは大きなものがあつたので、當時の有力なる新聞雑誌は筆を揃へて之を歡迎し、世に紹介した。又中には、熱心に、文體用語を非難したものもあるけれど、それは末葉の事に屬してをり、世を擧げて賞讃したのである。實に「黄金丸」一篇は、少年文學界への先生の華々しきスタートであつたのである。

#### 四、お伽噺の大量を著作

先生は、前記の少年書類の他に、既記の四種の兒童雑誌を主幹して、毎號に新作お伽噺を發表しつゞけた。その努力は大きい。幼稚園程度のもから、小學低學年、及び高學年の男女別々向に、よくも創作しつゞけられたものであ

る、従つて、それ等の單行本の數も、枚舉に遑のない程である。

そして又、先生のお伽噺は、ドイツのベルリン大學の東洋語學部では、先生の「日本昔噺」を教科書としてをり、それが縁きもなつて、先生は、三十一歳から、三十三歳の時まで、僅かに二ヶ年に過ぎなかつたが、その日本語の講師としてベルリンに在住して、童話資料の蒐集にも勉められた。

お伽噺が、童話といふ様になつてからも、先生の努力は少しも變らず、文壇の人々が、童話と共に、童話の創作に進出した大正中葉の時代にも、平然として、兒童向の立場を失はずして、確かな歩みをつづけられた。さういふのは、從來のお伽噺は、筋本位であつて、藝術味が少ないといふ非難もあつた時代であつたけれども、かくて、先生の、翻譯された世界お伽噺の類も、創作されたお伽噺は、凡ての社會層の兒童に讀書趣味を表はしむる基きもなつた程、よく讀まれた。新進童話作者も多くなり、それ等の著書も多くなり、兒童讀物としての童話書類は、所謂汗牛充棟、

實に夥しいけれども、多くの圖書館に於ての統計によれば、先生一人の著書も、他の作者全部のものが比適するほどよく讀まれてゐる。そして、幸にして、先生のお伽噺や童話は正しい人道主義に立脚したものゝみであるから、何等の不安なく、何んな時代の兒童にも與へたいものゝみである。

前記の「日本昔噺」「世界お伽噺」「世界お伽文庫」の外「小波お伽百話」「小波新お伽百話」等々中は博文館發行であり、數年前の「小波お伽全集」十二卷の豪華大版の大出版は、その刊行集が出来て完成され、今年その續刊三卷も準備中の筈であつた。

## 五、お伽芝居

次に、先生は、童話劇や、學校劇にも、多大の開拓をされて、震災前、丸之内にあつた有樂座に於て、毎週土曜日の曜の午後、お伽芝居をさせられた。これは、直接、先生が、久留島武彦先生と共に直接、監督指導されたものである。栗島狹衣、天野雉彦、石川木舟氏等は、技藝員として舞臺を踏み、今、映畫女優として名の高い多くの婦人た

ちの中には、このお伽芝居の子役として、先生の指導を受けたものが、少くないのである。當時は、まだ、學校劇ともいはず、童話劇ともいはなかつたが、「お伽芝居」、の名によつて、大體に於て、上流家庭の兒童や父兄達をも、何んなにか、よき午後を樂しましめたであらう。毎月、題目を改めての毎月興行は、かなり、骨が折れたらしい。兒童藝術の事が、大に理解され、大に進んだ今日、幼稚園にさへ、人形芝居が行はれてゐる今日、その様な機關のない事が、非常に淋しい東京である。それだけ、二十數年昔、よくも思はれることである。

## 六、お伽假名

先生の大慧眼は、假名遣の不自然に氣がついて、自らお伽假名と稱して、發音通りにかゝれた。これは、二十年間、外人に、日本語を教へて見ての経験も手傳つて先生の信念を強くしたものである。折柄文部省内の國語調査會の一委員ともなつて、諸學者と共に、その改良に努力されたのであるが、今、行はれてゐる先生のお伽嘶の本の多くは、この發音假名によつてゐる。後日、先生の此の先見が我國の

國語史上にも讃へられるであらう。さういへば、私事に屬するが、私の祖父、盲人葛原勾當の自署日記が全部發音假名である事を、非常に喜んで下さつた先生であつた。

## 七、お伽講演

先生は、お伽嘶、童話の筆を斷たないと同時に、その口演を創めて、久留島先生と共に、國內は愚か、滿鮮、臺灣、樺太、布哇にまでも巡廻して、各地の兒童を悦ばせられた。そして、今や、全國的に、ラヂオだけでも分る様に、所謂、童話口演家は、他にも、岸邊福雄、安倍季雄兩先生をはじめ、非常に多いのであるが、そして、各々、特徴を異にする話し振ではあるが、先生のは、いつも、輕妙でしかも、變化に富んでゐて、少しも兒童を飽かしめず、身振も最も自然であつて、上品であつた。トーカーにでもなつておくべき國寶でもあつたのに！。

大正五年六月二十五日には、秩父宮殿下御幼少の頃、その御誕生日の御祝に、御前お伽講演をされた。此の如きことは、前古未曾有なので後輩たる私共まで非常に悦んで、兒童文學界のものが總集合して、お祝ひもし、先生の感想

談をきいたりした。のち、澄宮殿下が、童謡をも御作りになつたのが發表され、作曲されて歌はれる様になつて、以後その御前講演をするの光榮を得たものも、次々に數名あるが、先生の時までは、前例もないこと、謂はゞ、かうした華々しい事は、先生によつて、はじめて、創められ得たのである。今、ラヂオによつての童話口演が、全國的に、かく盛んであるのも、先生の蒔かれた種が、蔓になつて、はびこつてゐるのである。

## 八、俳句と俳畫

先生は、また、半面、俳句と俳畫をよくされた。そして、近年は、多く、その爲に全國を旅行された様である。それも先生の性格をよくあらはすところの作品ばかりであるのは、いふまでもないが、描かれるところの俳畫は、多く、童話界のもので、童心にみちたものが多いのは、さもあるべき點であらうか。その新作さるゝ句の、速成の鮮かさ、畫筆の運びの輕快さ。それでゐて、風韻に富んだものの出来ることは、實に驚嘆に値する。

これについて、私自ら、先生に、遂にお詫びしそこねた

一事がある。大正中葉期に、私は「一姫二姫三太郎」といふ名での育児記録を出版したのが歡迎されて再版の準備にきりかゝり、初版は高島平三郎先生の紋文を頂いたので、再版には、さて、先生に俳句を頂いた。しかも、五枚も色紙にかいて頂いたのに直ぐ、關東の大震災となり、出版書肆の破産の爲に、そのまゝになつてしまつた、しかし、先生は、その後、何度會つても、一言も、その事を責められなかつた。それだけ、申譯がないので、今や、その一姫も二姫も三太郎も、成人してゐるので、何かの記念に、何かかして再版して、先生の特に新作して下さつた俳句を、口繪にしたものを、先生に見て頂かうと念じてゐたのであつたのに――。その句は

年玉や一姫二姫三太郎

一姫の一番高き雛かな

二の姫の白酒を唯甜めたまふ

脊より高き菖蒲の大刀や三太郎

名乗り出て印地の猛者や三太郎

## 九、作歌者として、詩人として

先生が、行くさして可ならざるはなき才筆であつた事は  
いふまでもない。八面玲瓏さは實に先生の事であつた。先  
生の作品の事であつた。そして、如何にも、澄んでゐた。  
去る九月二十二日夜の、「小波先生を語る會」の席上でも、  
私はしみじみいつた。

「先生の胸に、チヨッキの時計の鎖に、いつも下つてゐ  
て、チリン／＼いふよりは、リン／＼と、高い澄んだ  
音を立てつゞけてゐた金の鈴、あれは、先生で非常に御  
氣に入りのもので、和服の時も、つけてをられたが、あ  
の澄んだ音こそは、先生の心ではなかつたらうか」。

澄んだ心、大自然に調和よろしく、何物をも映す事の出  
来る澄んだ鏡、清濁併せ呑む事の出来る大度量、そして、  
その爲には、唯なまやさしいのでなくて、一貫した至誠、  
根氣、進取の氣象のあられたればこそ、昔から先生の作に  
かゝる兒童唱歌の多くが、あくまで、健全であり、正義で  
あるのは、いふまでもなく、また、意外に、非常に力強い  
先生性格の現れてゐるものもあつたのである。實は極めて  
圓満であつた、極めて平和であつた。誰かもいつた、

「先生の御存命中は、そんなに感じなかつたが、先生亡  
き後の今、先生は、非常に温かであつた事に氣がつく。  
先生は、太陽の様であつたのだ、いつ會つても、明るく、  
そして温かであつたのだ、今や、私は暗くなり、冷たく  
なつた世間を感じる、これなら、御在世中、もつ／＼  
接近しておきたかつた。やはり先生は、大きな磁石とし  
て、私共を、引いてゐて下さつたのだ、太陽さして、照  
らし暖めてゐて下さつたのだ」。

また、ある女流童話作家はいつた。

「先生から頂いたのではないのですが、私は、今、先生  
を記念して、片身の帶止をしてゐます。これは、先生が  
亡くなられたのをきいた時、私自分が、そんなら、もつ  
／＼早く、先生に御近づきを願つて、もつ／＼指導を頂  
きたかつたのに、今やおそし、そこで、私は、水晶を買  
つて帶止にしました。今後、毎日、帶をしめる時、童話  
に苦心する時、いつも此の水晶を見ては、先生を思ふ  
て、努力したいのです」。

さいつた。かくも、強い先生の存在であつたのだ。この先

生は、「愛」のシンボルの様でもあるが、そもそも愛は、只、床しく、やさしいのみではなくて、極めて、力強いものである。

私は、先生の作歌の中に、珍らしくも、今の世にも、これを反唱して、意氣を鼓舞したいものを、発見してゐる。

### 聖靈山

山あり 高さ 二〇三メートル

呼んで云ふ 聖靈山

乃木將軍の命する所

今を去る十年前

旅順の脊面攻撃に

日露惡戦苦闘の地

血を流すここ 滾々！

骨を曝すここ 壘々！

時 半歳に及ばんとして

遂に漸く 我に歸せり

其山 今 如何

只是 赤裸々の山

山上の記念塔

高く 天を指すの外

岩の奇なる無く

石の偉なる無し

時しも 秋の眞中

野菊 其所此所に

黄なるあり 紫も

中に見る 鬼薊

風に野菊と相搏つて

倒れたり その薊

香るなり この野菊！

これは大正二年十月二日の作である。この雄々しさは、先生の心の一面でもあつたのである。先生が只一つに平和で圓満で八面玲瓏のみの人でなく、強い根氣、努力、意志の人であつた他の幾多の事實を考へ合せて、「文は人なり」さきく時、肯かれるものが多い。



先生を、私が、名によつて知つたのは、私が郷里の小學校の時、東京にゐた兄から送られた「少年世界」によつてであるが、文通したのは、私の上京後のこと、そして、初めて直接お目にかゝつたのは、明治四十三年一月十三日夜、神田の學士會館であつた事が、珍らしくも確かに分つた。

これは、高島平三郎先生が、御長男文雄君の十五歳になられた時、昔なら元服する時だからこゝて成堂の祝會を催されて、近親や別懇者を招かれた時、私も、末席に列なる光榮を與へられてゐて、中央に、小波先生を見、宴はてゝ後、高島先生から御紹介を願つた時であつた。この事が、かうした特殊のコドモに緣故のあるのが、私には尊い。

のち、私は、雑誌「小學生」が同文館で創刊されて、二年弱を主幹したが、故あつて退いて、博文館に入り、「少年世界」に手傳ふ様になつて、五六年間は、直接、先生の指導を受けた。そして、あの澄んだ金の鈴の音も、いつも、耳にし、また、先生愛用の金口の黄、MCCの香も、黄はのまぬ私も、知る様になつたが、博文館編輯部に大異動があつ

て、先生は客員格になられ、私は退社後、童話の事よりは、音楽や童謡の事に、多くの關係を有つ様になつてからの私は、先生と直接の交渉は有たなくなつたけれども、兒童藝術の事にかゝはる限り、先生の力を借らないですむ方面は、なかつたので、事さへあれば、先生に御頼りする事も多かつたし、いろ／＼の會合で、よく、お會ひしては、金の鈴の音を尊んだ。

今年、六月上旬、私の郷里から、先生は、郷里のエハガキでおたよりを下さつたのが、先生から私への最後の交渉となり、のち、廣島で御入院さきいて間もなく全快、御歸京の新聞記事に安心して、私は夏休暇に入り、八月下旬、旅行に出ようとする日、安倍季雄君からの電話の序に、先生の容態は、實は三ヶ月が危いこの事ださきゝ驚いたので、旅行先から、土地の名産を、いろ／＼集めて、この中の何か一つが、先生の御口か御目に、少しでももの御慰めか、安らかさを御傳へせよかしと祈つて、贈つたのであつたが……。

先生は、しかし、最後まで、幸福であられた。「實文二十年史」かの中に、不幸だき考へてをられるけれど、大臣や大將になつた友人もあるに、自分は、さ、自ら低うしてをられるけれど、一大詩人として、その時でも、日本一であられたし、更に二十年後の最後でも、益々、多くの功績を残された上、嗣子三一君は劇曲の作者として、又、舞臺監督者として、愈々確かな歩みをつづけてをられるし、只、三萬八千枚の原稿用紙による特殊の一大編著の完成を見られなかつたのは、残念であるが、既に其の前途は見えてゐる上、國文學專攻の令息が後繼して完成を急がれる事になつたさきく時、先生は、全く幸福なる一生を送られたのであつたと思ふ。勿論、私共はよくいつた、「俳畫俳句もさる事ながら、先生には、童話の新作に専念して貰ひたい。」さ。しかし、旅行好きの先生には、それも無理な註文であつたらう。それだけ、をしくてならぬ。

\* \* \*

更に、幼児教育上特に思ふ、先生ほどの大きな存在は、何によりて、我が國が、有ちえたか。

はやく、母君に分れて不幸であつたが、之に代る人々の至情、骨肉の親身の愛、そして、環境の感化、就中友人の感應、そして、本人の好むところ。これらが一九三三になつて、先生を成したのである。

幼児に對して關心を有つお互は、先生の一生を顧みて、特に此の點に心してゆく時、やがては「小波先生」に近いものでも、世に送り出す事が出来ようかとも思ふのである。

(昭和八、九、二三夜湯河原、望の湯にて)

#### 〔寫眞説明〕

肖像は大正十四年、アンデルセンの五十年祭を催された時、丁抹國政府からその主唱者として贈つて來た勳章佩用の先生でございます。

# 幼兒教育にも一業専心主義が必要

京都、永觀堂幼稚園 牛 島 隆 則

## 緒言

近來保育に關する講習會が至る處に、各種團體主催の下に開催せられることは、内容は別として幼兒教育振興上誠に喜ばしき現象の一つである、又保育指導者の位置にある者の指導精神も從來の保育の型を一變し、幼兒そのまゝの實際的方向に轉進しつゝあり、又各地に開催せらるゝ保育大會なきに提出の研究問題の如きも、最近に至り次第に眞面目に實際的問題に進みつゝあるが、猶未だ根本的に改善を要すべき點、其他幾多の事項は吾人の眼前に横つてゐるのである、従つて保育當事者の自力的今後の活動こそ、我國幼兒教育將來の進展如何を卜するバロメーターである。

自分は幼兒教育に直接關係しては未だ日淺く、研究も充分ならざる身を以て、この大切な非常時に生活し、先き程

は「幼兒教育の統一に就て」七月の「幼時の教育」に意見の一端を發表したが、幼兒教育振興の必要を痛感する今日に於て、同一意見の人を一人でも二人でも作るこゝが出来たら、無意味に一生を送らぬことになるであらうと思ふ誠意に有難く感ぜらるゝのである。古人の句に

狗の子の眼をぼつちりさあけの春

ミ云ふのがある、これは元日には人々が賑かに笑ひさめくので、軒下に寝てゐた狗の子まで眼をあいて共に新春を祝ふ心をあらはすミ云ふのである、自分も其の狗の子の様な氣分になつて、幼兒教育の大に興隆すべき時代に微力を致したいとの念願から、本題の様な意見を發表するのであるから、先輩諸賢よしその意のある處を察せられ、誤れる點あれば遠慮なしにお教示を願ふ次第である。

## 一、一業専心主義の必要

何事によらず一業専心主義でなくては、充分の成果を擧

ぐる事は出来ない、例ひ非凡の人であつても限りある力を以て限りなき幾多の事業に精力を分割して好結果を得んとする事は、木にのぼつて魚を求むる様な類である、彼の鐘紡會社の今日あるは武藤山治氏が一業専心主義を貫徹された賜であると思ふ、元來兼務が本務丈けに身の入らない事は何ミ云つても人情の弱點である、自分なごも軍職にある時代には、色々の兼務や御用掛なご命ぜられて、幾多の経験を嘗めてゐるのである。

元來兼務をなす場合は、多くは經費の都合ミか、一時的の場合ミか、一人前丈けの仕事量がなき場合ミか、他に適當な人物が得難き場合等に適用すべき便法に過ぎないのであつて、決して賞用すべき方法でない事は明かである。

然るに幼児教育界の現状は如何ミ云ふに、小學校長ミか、一寺院の住職ミか、女學校等の校長ミか、他に多用の本務を有する者が園長を兼務せる次第にて、専任園長の如きに至つては稀ミ云はねばならぬ状態なのである、して見れば今日まで幼児教育の振はないのは別に不思議でも何でもな

いのである。

## 二、何が故に園長の兼務が多いのか

ミ云へば

### 一、經費の都合

### 二、經營系統の關係

### 三、園長の職務を輕視せる關係

なごが兼務をなす重なる原因ミして考へさせらるゝのである、言ひ換へれば幼児教育の事業は、まだく身を入れて、金をかけて、やる丈けの價值がない者ミ一般に認められ居る爲ミか思れないのである。

幼児教育普及の點から云へば、なるべく保育料を輕減せねばならぬ、従つて多くの保育團體は其點に留意し來れるが、公立以外の多くの保育團體は經營系統の關係上、確實なる基礎を有する者少なし、従つて園長を兼務する方が園の發展は兎に角、經濟其他に於て好都合である。

又園の成績が擧らなくても別に小學校ミか、中學校なごの様に上級學校に入學する率を彼此れ云々される様な心配もなく、又監督官廳は公立幼稚園に對しても左程の關心を

持たない様である、況んや私立團體に於てをや、甚しきに至りては先に「幼児教育の統一に就て」に於て述べたる如し、幼稚園以外の名稱の下に保育せる團體に對しては、學務當事者は幼稚園でないから全然無關心の現狀で社會事業の一部として見做されてゐる、或は學務課、社會課何れに屬してよきや迷ふて居る地方もある様である、甚しきに至つては無届のまゝ多數の幼児を狹隘なる場所に收容してゐる處もある、社會事業の名の下であれば、届けても届けなくとも保育すれば、設備萬端幼稚園令に指示されある、例へば保育室は一坪五人以内とか、運動場は一人一坪以上とか、何とかの規定を無視して如何に運動場は狭くとも多數の幼児を集め保育することは、ないよりも有る方がよい、と云ふ主義だと思へば、大切な幼児時代を斯る不統一の許に生活させるのが、所謂幼児教育が輕視されある證據であると思ふ。

### 三、園長の職務は閑職ではない

何事でも一業専心主義でなくては發展は望めない、例へば中等高等學校等の教員なきが往々内職的に幾多の學校の科

程を分擔し、惡く云へば時間の切り賣りをなせるなき、或は小學校長に本務以外に幾多の役目を課するなきは、今日教育界の行き詰りを來す原因の一つに計へてもよいかと思ふ、陸軍なきでは本職以外に勝手に内職なきは嚴禁してゐる、今日我國幼児教育の進歩發展が遅々として進まざる原因は、前に述べたる如く殆んど園長兼務制を採用し來れる結果であると思ふも過言でないと思ふ、其證據には都市の名は指さないが專任園長を置ける都市にあつては、相當の成績を挙げ範を示しつゝあるのである。

元來市教育當事者は該市經營の幼児教育事業に關係せねばならぬのみならず、其の進歩發展上責任者の位置にあらねばならぬ筈である、然るに往々にして關心を有せざる都市もある様である、斯る都市の保育事業は遅々として進まざるは當然の結果と思はねばならぬ。

幼稚園は家庭の延長であつて、幼稚園令にも指示される通り、家庭教育の補足をする一つの任務がある、言ひ換へれば幼稚園は一大家族制である、園長は家長で主任保母は主婦である、家庭としては一日も家長を缺いてはならぬ、

世間に家長(男)なき家庭や又は家長が年中不在で年に一、二回しか歸らぬ云ふ様な家庭の状態を考察して見れば思ひ共に過ぎるのである。

小學校長が市長さか市長さか云ふ職務は、一日も缺いてはならぬことは必要條件の一つである、園長も之と同様で家長として常に園にあつて園児と起居を共にし、常に園児の信頼の目標となつて一日も缺く事の出来ない役である、彼の教育會の會長さか、保育會の會長さか云ふ様な、年に必要の都度顔を出せば済む閑職なごさ同一視されることは絶對的に出来ないのである。

#### 四、何故に園長の兼務が解けないのか

園長さ云へば保護者に對し重大なる責任がある、保護者も園長を信頼して愛兒を托せるのである、その園長が自ら園務を充分に處理する事の出来ない状態にありながら、甘じて兼務しある事は其心境の諒解に苦む次第である。

眞に責任を痛感する者なれば、自ら園長を他に譲るか、又は園長を兼務する事は本務の遂行上不都合であるから兼

務丈けは解かれ度き旨、上司に申出る位の勇氣が望ましいのである、併しながら非凡の人物にして兼務しても専任同様の成績を擧げ得る者なれば、元より兼務差支なきも、斯る人物はなか／＼得難いのが普通である。

殊に小學校長の園長兼務の如きは、何れの方面から見ても早く其兼務を解いてやる必要がある、校長自身に取つても甚だ有難迷惑ならん、幼稚園さしても迷惑千萬ならん、故に小學校長は相談役の役目とする方が適當ならん、何故なれば小學校長には重要な要務がある、其要務を完全に遂行する丈けでも、なか／＼骨の折れるのであると思ふ、

今日の小學校長は本務の外に園長の兼務さか、青年訓練所主事さか、婦人會さか、處女會なごに關係せる外、學務委員なごの干涉がましき行爲なごで自分の思ふ存分理想を發揮して本務を遂行する事は、なか／＼普通人のよくなし得る處でない様である、何故に小學校長は校長として教育の神聖を保持し、ごこまでも全責任を負はせ、思ふ存分にしでシ／＼やらせないのだろう、近來教育界の行き詰りなごで小學校教育の振興問題なごも議論せられる際にて、自分は

常に小學校長に對し滿腔の同情を表して居るのである。

一方市當局では經費の都合で兼務も已むを得ずこの説をなす處もある様だが、人間の基礎を造る大切な幼児教育を金がなければ已むを得ずして放送する事は甚だ遺憾の次第である、園長の給料がないなら、其を得る方法を講ずれば必ずや適當な途が開かれるに相違ないと思ふ。

最後に一言し度きは、近來幼児教育の必要が漸次認識せらるゝに至り、保姆の採用に關し、人格、學識等に重きを置き、有爲の人物が増加しつつある傾向を見るのは誠に喜ばしき現象である、併しながら主任保姆の園長を援けて責任を果す意氣込みの度合は、甚だ失禮な申し分ではあるが、未だ充分ならざる様な觀なき能はずである、元より其間には保育に充分の理解なき園長の許にあつて、女性の常識として已むを得ざる場合の存する事は同情に價する處であるが、理解なき園長をして理解あらしめる様、積極的に導くに於ては必ずや相當の理解の域に達せしむる事は決して至難の事にあらず、要するに従來成績の擧がらざる責任の一部は主任保姆も負はねばならぬ者だと思ふ。(八、九、一〇)

## 日本幼稚園協會講演會

一、期日 來る十月二十一日(土)午後一時半より

一、場所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園  
(小石川區大塚町卅五、窪町停留場下車)

一、講演及び演題

開會の挨拶

主幹 倉橋惣三氏

性格の病理

東京帝國大學助教授 青木誠四郎氏

皆様御誘ひ合せ、多數御來會の程おまち致して居ります。

九月末日 日本幼稚園協會

# 十一月の觀察

堀 七 藏

## 一

十月・十一月は收穫の時期である。稻の收穫が最も重要なものであるが、大豆でも小豆でもまた粟でも、更に里芋でもさつまいもでも、大根、牛蒡等の蔬菜類でも皆收穫の時期である。

故に八百屋ごっこ、果物屋ごっこなごを中心として、いろいろの觀察作業を行はせるがよい。單に眼で見るだけでなく、凡ての感覺器官を働かす直觀を行はしめ、直觀し印象したものを發表作業させねばならぬ。八百屋なり果物屋なり、またマーケットなごを觀察して、店に竝んでゐる野菜類、果物類なごの名稱、形狀等を直觀させ、更に農園に於ける栽培收穫の實況を直觀させねばならぬ。そして直觀したるところを繪に發表させ、また粘土や厚紙等で製作させ、それ等を陳列して八百屋ごっこ、果物屋ごっこ等の綜

合的な遊びさせねばならぬ。

またいろいろの草の實、樹の實等を採集させ、蒐集せしめて遊びの材料となし、觀察の材料させねばならぬ。ごんぐりの獨樂、じゅづだまのくさり、つばきの實、茶の實などでも藤の實などでも、いろいろ面白いいものが幼児につくられるから觀察のよい作業となる。

また草原を歩くご、ふのこづち、ぬすびごは、なごの草の實が着物にいたり、種子をはちきちらすものなごがあるから、それ等を随時幼兒に觀察させるがよい。従つて十一月、お天氣の日には成るべく幼兒を外に引率して自然物を對手とする外遊びを十分行はせねばならぬ。

## 二

十月から十一月にかけて、所謂秋咲く花が大變に多いから、是等秋咲く花を觀察させねばならぬ。コスモス、ダリ



ヤ、菊、けいごう、サルビヤ、日々草等の花はよい觀察の材料となる。コスモスでもダリヤでもまた菊でも所謂頭狀花で、多くの小さな花が頭狀花序をなしてつき、總苞で包まれてゐる。一寸見るに、この總苞が萼のやうに思はれる。しかし萼ではない。

一つの花の如く見えるものを割開いて、これを成せる小さな花を一つ／＼取出して見るに、周りに着ける花の中心に集り着ける花の、概ね著しく相異なつてゐる。周りの花の花瓣は大きく長くして、本は管をなし先は一枚の扁たきものになつてゐる。中心の花瓣は小さく短き管をなし、先は少しく五つに分れてゐる。これ等の花には何れも萼がない。花瓣の管の中に一本の雌蕊があり、その先は二又に分れ、本は花瓣の下方に橢圓形をなして膨れてゐる。中心の花には雌蕊の中程を鞘の如く圍みて雄蕊の囊がある。そしてこれより黄色な花粉を出す。しかし周りの花には雄蕊がない。

菊は昔より花を觀賞する爲に作られ、その爲に多くの培養變種が出来てゐる。花の集りの大いさには徑三握位にす

ぎないものがあり、又十五握以上のものもある。花瓣の色には黄、白、紅などがある。また裏と表との色の異なるものもある。又周りの花が少くて中心の花の多いもの、周りの花が多くて中心の花の少ないもの、又殆んど周りの花のみから成れるものもある。又周りの花の花瓣が殆んど全部扁たきもの、半ば扁たく半ば管をなせるもの、又殆んど全部管をなせるもの等がある。

菊でもダリヤでもその花の構造につき八釜ましく觀察させることが困難である。けれども花の色や形狀等を比較させつゝ、觀察させ異同を明白になすがよい。

### 三

十一月には萬木紅葉して落葉するときである。紅葉するもの、黄葉するもの等、いろいろの木の葉を採集させて比較させるがよい。色ばかりでなく、葉の形狀、大小等も比較して觀察させるがよい。落葉する樹木に落葉せぬ常緑木との名稱を調べさせるもよい。勿論幼稚園の庭、またその附近にある樹木の全體の形を寫生して厚紙で切抜かせるもよい。

秋の木葉はその上に蠟を塗つて保存することが出来る、それでバラフィンを熱してきき、筆にバラフィンをつけて木の葉の両面に塗り、その木の葉を紙に貼付けて保存させてもよい。

落葉した後に芽のあることがよく分る。常緑木でも葉になる芽、花になる芽がある。さざんくわやつばきを觀察させ、さくら、うめ、ももなぎの芽を觀察させるもよい。しかし六ヶしいこを説明することは無用である。

#### 四

十一月には球根なごを幼児に栽培させるがよい。アネモネ、ヒヤシンス、チウリップなどは十一月初めまでに植ゑねばならぬ。防寒防霜のために粗殻や藁で被をなすもよい。チウリップ、ヒヤシンス、黄水仙、水仙類はその球根を花壇に栽培するもよいが、ヒヤシンス、支那水仙、水仙類は小石を入れた水鉢でよく成長するから、幼児にも根の成長が觀察出来て面白い。是等の球根を数日間涼しい暗處に置き、根が出て成長し初める三日の當る所に出して置くのである。また小さな瓦鉢に普通の土を半分ばかり充し、球根の

太い所を下にして置き、球根の尖端が僅かに現はれる位、鉢に一杯土を入れる。そして根の出るまでこの鉢を暗い冷い處に置く。一週二回規則的に水を與へる。しかしあまり濕してはならぬ。葉が七八程に伸びたならば、明い所に鉢を出す。是等の球根の鉢は幼児に世話させるがよい。

#### 五

秋になるさいろくの鳥を觀察させることが出来る。きじ、やまざりでも、またがん、かもでも幼児に觀察させることが出来る。すいめ、きじ、やまざりなどは留鳥といつて、一年中同一地方に留まるものである。しかし是等でも夏と冬では多少その棲むところを異にする。木の實を食してゐる小鳥類が秋になるさよく目につくものである。その鳴聲や色彩なごをよく觀察させるがよい、がん、かもなごは冬鳥と稱し、我國より北の方で巢をつくり、雛を育て、蕃殖し、秋我國にわたつて来て冬を越し、翌春再びもこの蕃殖地に歸つて行くものである。夏鳥のつばめ、ほみぎ、すゑ反對である。

幼稚園の庭に小鳥を呼ぶ工夫をする面白い。小鳥は餌

で二種に大別出来る。草や樹の實を食するものと蟲を食するものとである。蟲を食する小鳥を呼ぶには、干魚ミか動物の脂肪などを適當な大きさにちぎつて、お庭の樹木にひつけて置くがよい。するさきつき、じじふから、いじふから、やまがら、うぐひす、めじろなどが、その餌を食するため庭に集つて来る。

また植物の種實を食する小鳥は多く穀類を好むから小麥、そば、麻、きび、稗、粟などを庭にまいて置くがよい、秋から冬にかけて小鳥類は餌を求めて人家の附近に集まるから、小鳥の觀察が容易になる。保育室に小鳥の掛圖を提出し置き、幼児が見付けた小鳥を比較觀察させる面白。秋から冬にかけて保育室に小鳥を飼育させるもよい。夏では、臭氣があつて困るが、秋になるさ差支ない。

## 六

秋十一月になれば、露や霜を觀察させることが出来る。露は大氣中の水蒸氣が氣溫の下降によつて飽和に達し、更に氣溫の降下によつて凝結し水滴となるものである。それで夜露ミ稱し、日没後氣溫が急に降下するために既に露を

生ずる位である。朝方午前四五時頃最も氣溫が降下するときには、朝露しけくさいふ有様である。若し氣溫が零度以下になれば、大氣中の水蒸氣は直に氷片ミなつて霜を生ずるものである。そこで露でも霜でも雨や雪の如く降るものではない。そんなところに霜が多く出来るか、露が多く出来るかを觀察させんな夜に露や霜が出来るかなども注意させるがよい。曇つた夜には露も霜も出来ず、晴れた夜に露を生じ霜が出来ることを注意させるがよい。

## 七

十一月になれば昆蟲の如き動物は蛹が卵ミなつて冬を越す準備をなし、かたつむり、かへるなどは土中にもぐつて冬眠をなし、鳥獸類もそれく越冬の準備をする。植物は果實種子ミなり、また落葉したり地上の莖葉が枯れて何れも冬を越す用意が出来る。人間も衣服に於て住居に於てそれく冬の準備をなす有様を觀察させるがよい。幼稚園の保育室はそれぞれ暖房裝置が出来る。暖房裝置の觀察をなさしめるさ共にそれに對する注意を指導せねばならぬ。火鉢ならばその構造から木炭灰、火をおこす有様等を觀察さ

せ火鉢に對する注意を指導せねばならぬ。ストーブならばストーブの構造、煙突、水盤等の觀察から石炭の觀察も必要である。勿論ストーブに對する注意も十分指示せねばならぬ。庭を掃き集めた落葉を燃して火の觀察をなさしめる

こもよい。所謂焚火は幼兒には興味の多いものであり焚火でさつまいもなどをあぶつて食せしめるこも一興である。しかし是等の機會に於て十分火を玩弄しないやうに訓練せねばならぬ。

## 自動車利用の園外保育につきて

城東幼稚園 脇 屋 直

當園にて自動車を利用し、園外保育を致しました最初は、昭和二年六月にて、この時は自動車にて豊島園へ参りましたが、其後暫らく中止致してをりました。現在當園は小學校の一部を使用致し、幼稚園は名のみにて、専用の庭園もなき慘さ、然し子供は小學校の運動場にて、毎日嬉々として遊んで居りますが、私共が考へますに如何にも可愛想で、園外へ連れ出したいこの心むらく起つて参ります。園長は幸ひ園外保育に就きまして御理解下さいますので、昭和六年四月より經費の許す限り、又園外へ連れ出す

事に定めました。

園外へ参ります時、保姆の注意する第一の要件は、子供に少しの疾病でもありました場合は、團體の仲間へ入れぬ様、堅く保護者に注意致して置きます事でございます。引率する幼兒は學齡前(年長組)の子供、場所は近い所を選定致します。附添人なしで保姆と共に外出をする事は、保育上價值多き事と信じます。それ故遠方へ行く事は希望致しません。自動車は客用大型の自動車なれば、一臺幼兒十二名は乗車出來ます。大抵幼兒は二十五名位、附添として保

姆四名、小使一名。

幼児が附添人なしで保姆ミ外出致します事非常の楽しみです、其日の來るのを毎日指折り數へて待つて居ります。植物園は、春秋何れの季節でも子供等の爲に觀察材料豊富で、適當のよい場所御座います。然し年少組を全然休園する譯に参りません故、十一時半に歸宅致します。其より自動車に分乘して出掛けます。秋の木實拾ひは歸るのを忘れる程に子供連は喜びます。時折には前日籠を作らして當日持參致させます。運よく材料を澤山拾ふ事が出来ました時は、年少組にお土産として分配致す事もあります。歸園は大抵四時頃自動車屋ミ契約致し約束の時限迄に再び植物園門前に迎ひに來て貰つて居ります。大事な幼児を預つて参ります大責任がありますので、少々乗車賃が高價でも信用のある一定の所へ依頼致して居ります。昨年は春秋二回の遠足の外、園外保育を七回實行致しました。

園外保育を致しました場所

一、日比谷公園

二、芝恩賜庭園

三、小石川植物園

四、九段靖國神社境内

五六

五、明治神宮及外苑運動場 六、芝公園

七、上野動物園 以上七ヶ所

園外保育につき携帯すべき用品

一、救急用箱 二、各兒水筒持參

三、各兒輕き菓子少量 四、幼兒徽章

五、手拭 六、呼笛等

終りに臨みまして希望を述べさせて戴きます。都市幼稚園は、郊外に相當の敷地を所有し、交通機關を利用し、一週に二回位子供を郊外に連れ行き、廣い野原を自由に駆け廻はり、トンボをこつたりバッタを追ひまわし、飛びまはる中に自然ミ新鮮なる空氣及日光に接觸せしめ、虛弱なる都市の幼兒の心身發達を増長せしめる事大に必要な事ではないかと思存します。



史女子ヤツ下山



史女子秀葉千

# 山下ツヤ子女史と

## 千葉秀子女史

土川 五郎

し後進の途を開かんこの心が切であつたために、自ら職を  
辞された。茲に尊い影が見える。

幼児教育編輯から兩女史の事を物せよと申越された、私  
は到底兩女史の事を知り盡して居ない、唯其一端を見ただ  
けである、尙其奥に大なるものがあるかも知れない、もし  
知る人があらば聞かせていたゞきたい、併し兩女史は何れ  
も幼児教育界の功勞者であることは誰もいめない事であ  
る。唯兩女史の個性が全く異なつた兩方面に輝いて居るこ  
ろは又大いに幼児教育界に裨益した事であらう。

四谷幼稚園長山下ツヤ子女史と朝海幼稚園長千葉秀子女  
史とは今回退職せられました。こは本市保育界の大なる損  
失であります。女史等は老齡とはいへ、まだ／＼矍鑠たる  
もので十分に幼児教育に當られる餘力ある人であつた。併

## 山下ツヤ子女史

### 女史の略歴

女史は明治元年七月二十日の出生、小學校時代を下谷根岸で、十四年六月から七年間桐生私學校で漢籍を専攻された、二十年九月から十二年間は小山作之助について音楽を修められ、二十二年四月に東京府教育會保姆傳習所を卒業小學校專科正教員と保姆免許狀を得られた。

職務としては明治二十二年九月本市富士見小學校唱歌訓導兼附屬幼稚園保姆となり、三十九年六月同幼稚園保姆專任となり、四十五年三月迄在職、二十二年七ヶ月、同月本市朝海幼稚園保姆に轉じ、大正二年三月本市四谷幼稚園新設に當り保姆兼園長に就任、昭和八年四月十日老齡且後進の途を開かんと決心固く退職せられた、勤続前後通じて實に四十三年八ヶ月の長き間幼児教育に盡された功績は實に大きい、文部省帝國教育會全國保育大會、市教育會區教育會より表彰を受けられた事十數回。

女史は幼稚園界に四十有餘年、終始一貫其職務に忠實で

幼児を心から愛さるゝ慈母の如くであつた、保姆を統御する事、一の策略なく誠心誠意を以て當られたので皆快く任務を遂行し得られたと云ふ事である。

性、竹を割つた如くさつぱりとして、思ふた事はすんずん云つて、小言も云つたり叱るこもあるが、あこはクロリと晴れて後に残らない人。

幼児を思ひ職務を忽せにしない逸事も澤山あるが、近く昨年十一月四谷區小學校聯合の運動會が、明治神宮外苑に行はれた、幼稚園も參加して遊戲をやる事になつて居る、時恰も女史は病氣にかゝり可なりの高い熱があり、數日食を一つも口に入るゝ事が出来なかつた、醫師は絶對安靜を命じた、女史はひそかに車で園に行き幼児と共に會場に行き、何かれと指揮をして遊戲が終るゝ又車で歸り床に入られた、氣を以て病を壓する信念があつたので幸に旬日ならずして快くなつたといふ事である。

女史は又親孝行で有名であつた、母のために自分の一生を犠牲にして孝養を盡された、母の在ます内は自分の好むものも母好まざるものは一切口にせず、母の好まざるもの

女史の略歴

本日時計松屋より送り届けられました。深きお心入れに依り、實に／＼結構なる立派なる好個の記念品、みな様の御厚意と先生の御心からのおゑらみにて、眞に勿體なき心ちいたし、早速自分の居室にて、故先生亡母の見へるまゝに掛けて報告致しました。先生もごのやうにお喜び下さいましたことゝ存じます。母もさぞかしよろこびお禮を申してをりませう。

(以下略す)

女史は内によく盡されたが、又外に向つて働きかけられ



る事が多かつた、又屢々苦境に立つてよく不撓不屈以て之れを能く征服された、彼の四十二年二月十八日學校に幼稚園が火災に罹つて全焼した、中屋印刷所の跡に假すまひ、油くさき中に職員を督勵して幼児を收容し、保育を遂行された時、かの大正十二年の震災の時の悲慘な厄をしみじく味つて、其中で夜おそく迄連日保育の準備に一身を捧げられた時、實に常人では堪えられない困難を突破された。

此の二大厄にいつも伴つて起る問題の幼稚園廢止の聲である、無理解な議員はいつも廢止を強調した、女史は其都度奮起して寢食を忘れて、外部の接渉に當つて遂に今日を見るに至つた、これには女史の夫君、武氏がよく職務に理解を持ち、女史に十分な餘力を與へて活躍を妨げなかつた事が女史の今日ある因であつた、又東京市保育會幹部としても甲辰保育會の元老としても實によく盡された。

女史は所謂世話好きであつた、義俠心のある人であつた、頼まれるこいやこ云へない質であつた、従つて女史の恩惠によつて今日をなした保姆も澤山にあるこいふ事である。

## 秋寸詠

よしこ

たけ高き一もこ桐はすえの上枝さはぎ下枝しやえさはぎて秋は來にけり

青の空にばかり一刷け浮雲のしろき動きをあかずもながめり

地上五寸 櫨あけの若木に朱に染み黄に染みたり一丁がほぎ(東京市苗圃にて)

つとめ持ちてあればわが子に對して

よの母に及びがたきを思ふ故に いさゝかこもかりそめこせず

# 今秋の關西聯合保育會に提出

## されたる談話題に就て

大塚 喜 一

今秋の關西聯合保育會は十一月五日に神戸で開かれるさ

うである。それに提出された談話題の中には、かねてより小生が重要な問題として考へて居たものがあるので、その二三に就て大體のねらい、こか考への絲口をかいふべきものを述べ、且今迄あつた講習や本誌の記事等の中には是等の問題の解明に直接必要であり極めて適切と思はるゝものがあるから、それ等に就て諸賢と偕に考へて置きたいと思ふのである。本文を草するに至つた最大の動機は當日の會合の意義と効果を徹底せしめ提出されたる諸問題に對する我等の努力の總決算に迄到達せんとの念願であつて、この會合により我等の今後の保育態度が幼兒の眞實なる生活形態に一層適切なるやうピッタリと來るやうに劃期的進境を

示さむ事を所期する次第である。

提出されたる談話題の中、先づ名古屋市保育會提出の「自由遊びの取扱ひ方に就て承りたし」が第一に小生の目についた。それもその筈今夏東京の講習での質議に小生が提出しやうと思つたもう一つの問題は「幼兒の自由遊を充實せしめむが爲めに保育過程上保姆の爲すべき積極的努力如何」であつた。實は會場で名古屋の沼波先生にお目にかつた時この問題の出る事を承り、それは小生のかねてよりの中心問題であるとして小生の題意等いろいろ話し合つたのであつた。そこでこの問題に直接關係深き資料は

一、大正十三年七月大阪にての倉橋先生の「幼兒教育原論」講習である。中にも共鳴並機會捕捉の原則と「幼稚園の

保育項目は何れも内容として自由遊戯の中に含まれてゐる。云はれた點は根本的に大切である。

二、「幼稚園雜草」中「幼稚園の朝」殊に「あそびから教育へ」、いつの間にか引き入れてゆく所に幼稚園の先生の手腕がある(二〇二頁)。

「子供の生活の中に幼稚園を見出す」(二〇三)。

三、京都府女子師範學校附屬幼稚園主任保姆貝利枝先生が理論實際兩方面より研究せられたる「幼児教育に於ける自由遊戯の新生面」。

四、今夏東京にての倉橋先生の「保育の眞諦並に保育案保育過程の實際」(本誌前號所載)このお話は全體が有機的統一をなして居りますので、こが特に大切なのか、指摘する事は困難であり却て適切でないかと思はれる。問題中の「取扱ひ方」といふ語が實際に當つてさうすればよいのか、いふ事を聞いてゐられると思ひますので、そうした間に對してはこのお話から教へられる事が最も多いと思ひます。

しかもこの方法をして方法以上のものたらしめる所にこのお話の生命即ち「眞諦」があるのですから、我々は本題の解

明に當つてはいろいろ考へて來て結局はここへ來るのではないが、そういう風に考へを進めて來るのが自由遊に對する保姆の態度を最も正當に見きわめる事になるのだと思ひます。

\* \* \*

次に神戸市保育會提出の「幼稚園に於ける遊戯の基本的態度に就て承りたし」の基本的なる語に就て是非會前に諸賢の御注意を願ひたい事がある。昭和六年秋名古屋での保育大會の節「幼稚園に於ける談話の基本的態度如何」なる問題が京都から出た。あの問題をさういふ字句を以て提出するかに就て案を練つた時に、實は「基本教育としての談話の態度如何」。

書きさしたかったのであるが、そうすると嬰兒期のお話から論じ始めねばならなくなるので「幼稚園に於ける」なる字句を冠するを要したの、更に重要な點は基本教育としての大切な所は談話の材料の配列分類等よりも實際のおはなしの態度にあるので、その點を充分に解明して頂きたかつたから基本的態度如何と問ふたのである。幼稚園の問題なる

故に基本教育の立場から當然論ぜらるべきは云ふまでもないと思つた。然るに當日の御答を通覽して見るに、この基本的なる語が唯一般に根本なる大切な點といふ位の意味に解せられてか、基本教育といふ明らかな立場から本題を提出したのだと解して頂く事が困難であつた。そこで、今回神戸市より本題を提出された方がこゝにいふ意味で「基本的態度」といふ言葉を使はれたかはまだお尋ねしてゐないが、とにかく幼稚園の問題を論ずる限り、基本教育としての特質から考察すべきものであるから、この問題の主旨を「基本教育としての特質を徹底せしめむが爲には幼稚園の遊戲に於て如何なる態度をとるべきか」と解したいと思ふ。そうすれば提出者の問はるゝ所も當然充分に徹底的に解明さるゝ筈である。

ここまで讀んで頂いたら、賢明なる讀者は恐らく本誌第三十二卷第五號の拙稿「基本教育としてのおはなし」を思ひ出さるゝであらう。(名古屋の大會の記録を本誌上に掲載されたものゝ中委員長として小生の報告した所だけが何の因果か實に誤字だらけであつたので、當時の委員會で相談し

た主旨に基いて書き直したものがあれである。)遊戲も要するにこの調子で行けばよいのである。「子供と語る」ここがおはなしの本義である様に、「子供と遊ぶ」事が遊戲の本義である。故に、自由遊びと表情律動等の遊戲とは極めて親しき相助的關係にあり、保姆は子供と共に遊ぶ間に遊戲の基本的態度を子供から學ぶべきである。幼兒に「何をしませうか」「どんな遊戲が好きですか」等問ふて要求せらるゝものが大抵單純素朴なるごっこ、風のもの多きは、幼兒に適切なる遊戲は如何なる種類、性質のものであり之を取扱ふには如何なる態度を以てすべきかを吾人に教ふるものである。僕はこの意味に於て土川先生の遊戲が幼稚園に極めて適切なるに敬服するに共に、先生の講習を受けられた方はこの意味に於て充分之を活用して頂きたいと思ふ。苟くも保姆に遊戲の講習をする以上、講師も受講者も基本教育のこの特質を第一に念頭に置くべきである。若しここを離れて單に外形の美にのみ走らむか却て幼兒を毒し自己の天職の神聖を汚すものとなるであらう。幼稚園雜草二三一頁倉橋先生、「幼兒の舞踊に就て」及本誌第三十卷第十號堀先生

「幼兒の唱歌遊戲」參照 こうした幼稚園の遊戲獨特の動きは今夏東京の講習にて戸倉先生の御指導を受けられたる方方の何れも實感せられる所であらう。本誌前號九十一頁に戸倉先生が「幼兒の心にかへりて」を題して述べられたる所は小生が今此處に云はむと欲してその表現に苦心しつゝある所を端的に鮮明に實際的に極めて適切に解明啓示せられてゐる、幼稚園の遊戲に就て思を致さるゝ先生方は、今回の講習までに戸倉先生が如何に子供から學ばむと努力して來られたかを本文を通じて學ばるゝと共に「子供等にくらく自由に表示させる志向を起させるのこそよき指導者、よき保姆である」この講師の眞の基本的態度を各自が日幼兒に接しつゝある實行の中に學ばれむ事を切望する。小生は本文を読んで遊戲に就て今述ぶべき事は戸倉先生の御高見の中に盡されたやうに思ふので、當日の會合にはこの態度この方向に向つての先生方の御體験談を聴く事を樂しみとして、この項を結ぶこととする。

\* \* \* \*

京都市保育會提出の「都市の幼稚園に於て特に保育上考

慮すべき點」を見て、先づ倉橋先生が昨年七月大阪の「都市幼兒教育講習會」に於て三日間お話せられたのを思ひ出す。この講習の内容は今回提出されたる本題の爲に教へて頂いたのかと思へる程よく附合してゐる。この講習に於て先生は云はれた「さうせ都市の幼稚園は無理な世界である。我々はこの都市の不自然なる文化過重の弊害から幼兒を救ひその本來の原始的な自然生活を全うし得る様に努力せねばならぬ」。小生の如く方々の幼稚園を訪問する機會に恵まれた者は、都市の幼稚園が郊外に比して如何に困難な苦勞が多きかを拜見する度にお氣の毒に感ずる位である。從て今回の如き談話題の提出さるゝのは如何にも、つゝもな次第であつて、所變れどこの苦勞には恐らく同じ心の動きがある。大阪の講習の後倉橋先生は「この講習は聴いてもらつただけでは有難くない、後の實行が大切である。」と本誌に記してゐられたのを思ひ出す。今當時のノートを取出して見るに、大阪の方の幼兒教育に御熱心な事を始めに賞讃してゐられるのを見て一層先生の御期待の大なるを感ずる次第、恐らく今回の會合では本題提出者の満足する様な多年

の御苦心に基く血の出るやうな生きた體驗談が伺へるものと特に期待する次第である。苦勞の大きい程その報ゐられた時の喜びは大きい。不自由な環境の中に居りつゝ幼児に自山な生活をさせたいと念願する親心は、一人の發表者の心から全會集の心へミ潑刺たる共鳴感應を以て傳はるであらう。先生はこの講習の終りに云はれた。「この講習で力説した事は都市ではなかく實現出来ないと思はれる所もあるが、全局面を一時に改良せんと思へらず小さい所から段々にやつて行けば、私の話した事よりも皆さん自身の生活の中から次々に改まつて來る事と思ふ。殊に皆さんには幼兒といふ力強い味方がある」ミ。實に我々にまつて何ミいふ有難い御言葉であらうか。お互に會合して日頃の質疑・研究・感想・體驗等を語り合ふのも、實は誰しもの最も切實なる念願たる幼兒の良き友となりその純真なる信賴に副ふ者になりたいとの本念ゆゑである。小生は、何卒今回の會合が、幼兒と共に生きる保育態度の中に各人の共鳴一致を見出す純愛の結晶に至らむ事を祈りつゝこの稿を終りたいと思ふ。(昭和八、九、一二八夜)

御寄稿下さい

論説

感想

質問

經驗談

葉書だより

其他

諸友へ

編輯部

# 實際家の意見を集めて

## 日本幼稚園協會調查部

○これは今夏、本協會主催の夏季講習會の折、會員の皆様から伺つた御意見をまとめたものでございます。先月の雜誌でお目にかける筈でしたが、紙數の都合で今月へ廻りましたので、少し古びてしまひました。

○講習會にお出でになつた方が四百人以上もございましたから、四百枚のお返事はいたゞけるものと思つて居りましたのに、頂いて見れば驚く勿れほんの五十枚。でも大勢の趣く所が分ると思ひまして、先づお目にかける事に致しました。

○第一第二の質問は姉妹問題であると思ひますのに、そういう風でなくお答へ下すつた方も多數ありました爲め、統計を取るのに困難を感じましたので第二の問題はほんの大略をまとめて見たに過ぎない事になりました。之もお含み下さい。

### 一、現在の保育法の實際に於て改

善を必要とする事があります

まいか、それはどういふ點で

せうか

幼兒の生活を自由に

誘導保育案をこころに

衛生的施設を改善して欲しい

保姆の無自覺

保姆一人の擔任を少くするこころ

郷土保育を盛んに

家庭と幼稚園の親密を

よりよき保育をするやうに

園長、保姆を理解ある人にするこゝ

小學校と連絡を取る様改善して欲しい

幼稚園の設備を完全に

保姆に醫學的知識を授けるやうに

一定の目的にあてはめやうとする傾があるこゝ

園庭に於て一同揃つて日光浴をするこゝ

保育案、保育過程の實際に留意するこゝ

遊戲本位の保育を保育眞諦に基いた保育にし度い  
形に現れた成績についてのみ考慮し幼兒個人の心

持の觀察が不充分

美術教育を

保育時間の延長

小學校の準備教育所たらしめぬこゝ

小學校の教材を使はぬこゝ

保育項目に捕はれ過ぎるこゝ

保育の實際生活化

一人々々の個性に充分適應出来ないこゝ

一人々々の子供に接する時間の少いこゝ

大きな製作物をするやうに

子供の環境の整理不充分

生活主義の保育に

一齊保育を改善し度い

小學校式(保育項目、建築物まで)を改めるこゝ

遊戲唱歌の曲を徹底的に教へるこゝ

一堂に集めて童話をきかせる事を改め度い

自由遊びの時の子供の遊び方を研究改善し度い

一園一家主義に

智力をあまりつけ過ぎる點を

より良き保姆を選ぶ事を

保育の眞諦に則してゐない點

保育の根本精神を忘れ遊戲や手技のみに力を入れ

る點

生活へ教育をではなく無理のある點



幼稚園型の打破

一

幼稚園の庭をもつて改善して樹、草花、芝生等を  
多くすること

一

二、その改善が實行されがたい大

きな理由は何でせうか

経営者、園長に無理解の人多い爲

一三

財源の無いこと

一一

幼稚園の内容が一般世人に理解されない爲

九

受持人数多い爲

六

保母の知識、熱心の不足

五

子供の環境が適當でない事

三

保育を教導する保育専門家の居ないこと

二

三、幼稚園の一組の幼児数は何人

位が最適當でせうか

二〇——二五

一〇

二五

七

二〇——三〇

五

二〇

一五——二〇

五

二五——三〇

五

一五

四

二——一五

一

一〇——一五

一

一〇

一

七——一〇

一

五

一

年長組は 三〇

二

三〇以下

一

四、子供のぐういふ性質を最も憂

へられますか

すなほでない子

一一

保母に親しまない子

九

大人の縮小みたいな子

六

あきつばい子

五

陰陽のある子

四

盜癖のある子

四

自我の餘りに強い子

三

自己を表さんとする氣力の無い子

三

偽りの子

三

神經質の子

三

實力以上に高慢の子

二

人を人と思はない子

二

人に引きづられてゆく子

二

何でも見たものゝ欲しい子

二

普はずれた亂暴性

一

人の物と自分の物との區別の分らぬ子

一

一事に熱中し易い子

一

人の困るのを見て悦ぶ子

一

傳統性の悪い性格の子

一

まりこし苦勞をする子

一

残忍性のある子

一

こすい子

一

六九

虚榮な性質の子

一

他人のものを祕す子

一

女のヒステリーみたいな態度をする子

一

卑屈な性質の子

一

無頓着な子

一

利己主義の子

一

無邪氣でない子

一

内氣な子

一

## 五、ごういふ性質の子供が保育上

### 最も困難ですか

注意散漫な子

七

口をきかぬ子

六

心の扉の固い子

五

共同性のない子

四

仲間と一緒に成れない子

四

じつとして何もせず又答へもしない子

二

變屈な子

一

人を受け入れる事の少い子

一

從順でない子	六	大人の指導を受け入れぬ子
他兒に迷惑をかけて平氣な子	五	人より多く欲しがる子
特別狂暴な子	三	病身の子
すぐ泣く子	三	自分の思ふ通りになると思つてゐる子
神經質の子	二	破壊性の子
陰陽のある子	二	無邪氣でない子
しようこする氣の無い子	二	暗い性質の子
人の持つてゐるものを欲しがる子	二	ませた子
興奮し易い性質の子	二	悪い傳統性の性質
人をそゝのかして惡事をさせる子	二	家ミ外ミ違ふ子
高踏的な子	二	人前では本心を出さぬ子
反抗的な子	二	がみ／＼叱られなければ動かなくなつてゐる子
偽り盗みの性質のある子	一	あまり潔白で友達の好き嫌ひをする子
横着な子	一	すねる子
浮薄な子	一	ねたみ深い子
知つたかぶる子	一	粘汁質の子
小膽な子	一	我儘な子
多辯な子	一	依頼心の強い子

## 六、幼稚園として幼児の家庭に對

し最も強く注意を促されたい

事は何でせうか

- |                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 幼稚園に對しての理解                       | 二四 |
| 子供を知つて欲しい                        | 七  |
| 病氣衛生に對して注意して欲しい                  | 六  |
| 幼稚園ミ歩調を合せるやう                     | 六  |
| 幼稚園のしてゐる事に關心を持つて欲しい              | 四  |
| 幼稚園を特別の場所ミ考へさせぬやうに               | 四  |
| 幼稚園をだしに使はないやう                    | 三  |
| 幼稚園に對して赤裸々に相談するやう                | 三  |
| 幼稚園に託せば幼児教育は完全ミ思つてゐる事に對して注意を促し度い | 三  |
| 先生を知るやうにして欲しい                    | 二  |
| 幼稚園に對しての不平不満があつても子供の前では言はないやうに   | 一  |
| 子供の附添ひの様子を始終注意して欲しい              | 一  |

入園の目的が餘りにも淺い様

父母、子供、保姆は同じ想像に向つて歩まねば

ならぬ

育兒的常識を持たれるやう

幼兒の抵抗力(心身共)を進めるやう

大人の様な禮儀作法の末にのみ過敏な要求をせ

ぬやう

吾が子を多勢の中の一人ミして見るやう

買食ひをせぬやう

お金をやらぬ様注意して欲しい

幼稚園を贅澤な所ミ思はぬやう

母親はもつミ子供になつて子供ミ遊んで欲しい

愛の目を開いて子供を保育して欲しい

規律正しき中にも優和な生活をするやう

子供が自分で出来る事は自分でさせるやう

子供へ溺愛して躰上禍されぬやう

家庭に居る時の子供の位置ミ幼稚園に居る時の

子供の位置を考へて欲しい

七、幼稚園から見て現在の我國の  
家庭教育上の缺陷と思はれる  
事は何ですか

- 子供に對しての無理解 九
- 甘やかし過ぎる 六
- 有害なる干渉をし過ぎる 四
- 早くから無理に教育し過ぎる 四
- 子供の意志を尊重しない 三
- 幼児の個性を尊重しない 三
- 我儘を通させること 二
- 心身の保護にのみ汲々として鍛鍊に意を用ひぬ 二
- 子供を親の虚榮の道具にすること 二
- 教育効果を見る事にあくせくしてゐる事 二
- 子供をいじり過ぎること 一
- 嫁姑の關係で母親が充分子供の教育に携はれぬ 一

- 父親が暴君である 一
- 母親に子供の教育以上の用事と興味の多いこと 一
- 幼稚園生活と家庭生活のつながり少いこと 一
- 子供を脅かす 一
- その場さへすめばいゝこと云ふ風が見えること 一
- 子供に對して不親切 一
- 幼児教育の不注意 一
- 憂ふべき習慣の出來つゝある事に氣付かざること 一
- 良い子供、健全に育てることを云ふ點に缺けてること 一
- 一 家族が多く、皆の言ふことがまち／＼なこと 一
- 一 幼児の精神的身體的の方面に無頓着であること 一
- 一 我が子の見方について重點に誤りあること 一
- 一 家庭の圓滿を缺くこと 一
- 一 智能方面にのみ偏し情操方面を考慮しないこと 一
- 一 子供をおさへつけること 一
- 一 両親が吾が子を見つめてゐないこと 一

母親が子供に對して矛盾した行爲が多過ぎるこ

こ

子供に對して要求を持ち過ぎるこ

大人の道德からのみ割出した訓練を行つて家庭

教育の全部を考へる——即ち堅過ぎる家庭教育

両親の教育方針の不一致

不規律不整頓

子供本位でないこ

幼稚園を輕んずる

母親を無權力者としてしまふこ

衛生上の知識の不足なこ

幼稚園に期待を持ち過ぎるこ

信仰心の足りないこ

金錢に對して誤れる經濟觀念を持つ

幼稚園は教へるこ、先生はこわいものこの

暗示を與ふる點

## 八、保姆の養成上どういふ點に最

も力を入れる事が大切と考へ

## られますか

人格の向上

幼稚園の使命につきもつこ自覺を持つやう

實際に多く携はるやう

手まめに骨惜しみせぬやう

思ひやりのある様

責任感の強い人に

研究心のあるやうに

眞實な人に

氣働きのある様

心の修養を云ふこに

保姆らしい心の持主に

朗かなる心持の人に

眞面目に綿密に注意を拂ふ人に

人格的態度の養成

愛を熱く眞實の人に

圓滿な人格

一般常識の涵養

一〇 五 四 三 三 三 三 三 三 二 二 二 二 二 二 二 二 二

醫學的知識を養ふ様に

二

よき友、よき母として幼児を誘導する

二

保育案及び保育過程の實際につき事實によつて

指導して欲しい

二

身體を丈夫に

一

感情の統制を云ふ點に注意して欲しい

一

唱歌及び遊戲に力を入れて欲しい

一

獨りで三四十人も受持つことを意識して勉強し

て欲しい

一

受持の幼児に對して萬遍なき觀察をなし各幼児

の心持を受け入れた分量について反省する習慣

をつけること

一

一園一家、保母同志妥協共力して保育する習慣

をつけること

一

内容豊富な人に

一

「人」を云ふものを養成し度い

一

豊かなる心の持主たるべく

一

如何なる事情に拘はらず子供と居る間は笑顔を

續ける氣持を養成し度い

一

人格を土臺とした學科の養成を致し度し

一

一人で一組を擔任する獨立心に缺けてゐる、實力

が足りない、間に合ふ丈の技倆を養成して

欲しい

一

心の教育、つまり平均にすらり成長した保母

を養成したい

一

基礎工事基礎練習が必要

一

社會問題に精通批判し得る頭を(子供の大きく

なつてからの社會を見越すため)

一

家族制度の我國に於ける上中下の階級に對して

適當なる常識を養成

一

社會人としての常識を持つやう

以上

# お月さま

田中忠正 歌曲  
小松清

$\text{♩} = 126$

*mf*

オ ツ キ サ マ ハ オ モ シ ロ イ  
お つ き さ ま は お も し ろ い

コ シ ヤ ハ マ ン ゲ ツ マ シ ャ ル ナ  
こ ん や は み か す き ほ う そ い な

マ ル イ ト ニ コ ニ コ ゴ キ ゲ ン サ ン  
ほ そ い こ う こ う お ね む り さ ん

## お月さま

土 川 五 郎

一、お月……左足左へ左手をあけ左上を見る

さまは……右足右へ右手をあけ右上を見る

おもしろ……右足右へ左足を左に伸ばし上体を右に傾け

顔を左上に向け両手を開き押やる如くす

「ろ」にて足は其まゝ正面におき兩かゝを

上げ両手を浮かせる

い……上体を左に傾け體重を左足に托し左肩を下

け開きたる両手を押へて右上を見る

こんやは……左右生向き合ふ

まんけつ……兩手にて丸を作り顔にあてゝ其中から二人

でのぞく

まんまる……背面隣生を向き合ひ

な……「まんけつ」に同じくす

まるいこ……正面を向き両手を兩側より上にあぐ

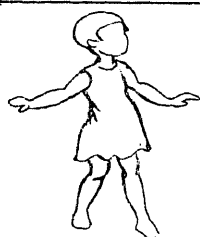


い

ろしもお

はまさ

月お (一)



な るまんま

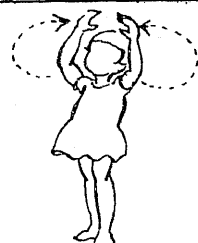
つげんま はやんこ



こ に

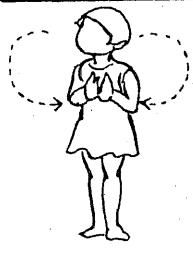
こ に

といるま



んさ

んげきご



いろしもお	はまさ	きっお (二)
ないそほ	きづかみ	はやんこ
とう	とう	といそほ
んさ	りむ	ねお

SINGO.

にこにこ………兩脇をおさし兩側顔に近く掌前にして左下を見る次に右下をのぞく

ごきげん………拍手二回

さ　　ん………上體前に頭を前に傾け右上を見て兩手を前に掌上になけ出す如くす。

二、おつきさまは………右向右上を見て兩手を兩側より上にあげ「さまは」兩胸を前にす

おもしろい………拍手三回後退三步す

こんやは………背面を向く

みかつき………上を見て兩食指を體前上方より兩側下方に半圓を描く

ほそいな………上體をかゞめ上をのぞき右食指次に左食指と交るく小さく指す三回

ほそいこ………正面兩食指にて半圓を小さくかく

うさうさ………兩手を前に掌下にして上體より頭も共に弱く左右に振りつゝかゞむ

おねむりさん………目をつぶつて兩手左へ流しつゝ一寸かゞみ右へ流して全くかゞみ兩手を左下床につける、上體

も左に倒れて右上を見る。

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫  
主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
附屬幼稚園主事

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アル人ニシテキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ  
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査  
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催
- 會ノ開催  
一、雜誌發行(毎月一回)  
一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行  
一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介  
一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
會長 一名 會務ヲ總理ス  
主幹 一名 會長ヲ補助シテ會務ヲ掌理ス  
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス  
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

## 定規文注

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

## 發行所

東京市小石川區大塚町三十五  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園  
振替口座東京一七二六六番

## 製複許不 載轉禁

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
編輯者 倉橋 惣三  
發行所 倉橋 惣三  
印刷者 柴山 則常  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 會社 杏林 舍

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
昭和八年十月十二日印刷納本  
昭和八年十月十五日發行  
幼兒の教育 第三十三卷 第十號

## 價定

一ヶ月分	六ヶ月分	一年分	特等面一頁二等面一頁
冊送金參拾五錢	冊送金貳圓拾錢	冊送金貳圓拾錢	金參拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓
拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	拾貳冊送金貳圓拾錢	金貳拾圓金貳拾圓

## 告廣

神田區駿河臺ノ三品田  
廣告社に御申込下さい

武藏野音樂學校長 福井直秋先生著

(新刊)

# 兒童唱歌七十二曲集

菊版洋裝美本  
箱入全一冊

定價金壹圓貳拾錢

送料金拾錢

兒童唱歌の基準!! 待望の名曲集漸く成る。

俄然文殺評好大然俄  
!評好大然俄  
!す到殺文注

こつき・わかくさ・ささぶね・みいちやん・ぶらんこ・たんぼぼ・シヤボンだま・あをがへる・ひよこ・さよなら・つばき・さくら・日の出・すずめのおやど・子ねこ・まりなげ・はしれ・國の祝日・ねむれ・青空・野ぎく・朝・濱邊あるき・つつじ・山路・ねむりませう・月・兵隊さん・風車・ご門の電燈・みなしご・冬が来た・水すべり・蝶々・川遊び・朝風・鯉のぼり・雲雀・池の緋鯉・登山・子雀・星のひかり・山家のぢいさん・月のひかり・霧・雪・春景色・田舎道・琵琶湖・夏の山・盆踊・涼しき森・汽車の旅・残れる秋草・小さき星・落葉・郊外の秋・港のにぎはひ・懷しの友・冬枯・花見・春風・小舟よ・あやめ・松風・懷し我が母・川邊の柳・うれしや我は・清き小川・冬の夜・親の恩

日音  
本樂  
教協  
育會

新尋常小學唱歌伴奏及解説

全六拾錢  
定價各六拾錢  
送料六錢

エホンシヤウカ春夏秋冬の巻

全三十五錢  
定價各三十五錢  
送料二錢

新高等小學唱歌伴奏及解説

全二拾錢  
定價各九拾錢  
送料六錢

子供の舞踊

卷一・二低學年用各六拾錢  
卷三・四高學年用各金一圓  
送料八錢

兒童の見た物や動物や事柄を、必要に應じて動作化さしめる遊戲  
低學年體育上身體各部に好影響を與へ、自由な形の發表能力を養ふ。  
讀めばすぐ分る實際篇を四十篇載せ、誰にもすぐ實施出來る様にす。

遊ぶ：(一五)掃除：(一六)海岸で  
 遊ぶ：(一七)お洗濯：(一八)動  
 物の真似：(一九)鋼物：(二〇)  
 海岸にある風車：(二一)海水浴  
 に行く：(二二)プール：(二三)  
 木の精：(二四)山遊び：(二五)  
 船出：(二六)小屋を建てる：  
 (二七)材を伐り出す：(二八)火  
 事：(二九)風：(三〇)西洋のお  
 祭り：(三一)クリスマス・ト  
 リー：(三二)サンタ・クロ  
 ス：(三三)クリスマス・の玩  
 具：(三四)雪合戦：(三五)冬  
 の遊び：(三六)職業の色々：  
 (三七)陸上競技：(三八)兵隊  
 遊び：(三九)武道：(四〇)ス  
 ポーツの色々

保 姆 用 教 育 學

森川正雄先生著 價三〇〇 送〇・二  
育兒法  
託兒所  
幼稚園  
附圖  
兼附  
奈良女子高等師範  
大學  
附屬幼稚園  
主事

東洋大學教授關寬之先生著  
高等教育  
兒童心理學  
價三圓  
送三圓

番七三〇一京東替振・地番〇一町保神表・區田神市京東  
番六五五九三阪大替振・地番八二目丁一町寺堂安内・區南市阪大



たのしい、たのしい

クリスマスとお正月

面白い手技、今から用意  
して待ちませう

- ◇ストッキング用織紙——色美しい純日本紙の織紙の香下。 五十組 金七十銭
- ◇星——金紙と銀紙とを打ち抜いた輝く星、大小二種。 一箱 金三十銭
- ◇柘の葉——濃緑とヒワ色の葉、紅い圓い實を添へたもの。 一箱 金三十銭
- ◇お誕生祝の鯛——鯛の形に打抜いた美しいカード。 百枚 金一圓八十銭
- ◇後藤運葉紙——菊・楓・松の三種、色各種、連繋装飾用。 一箱 金三十銭
- ◇國旗さ日の丸・提灯さ日の丸——装飾用、何れも百組入。 一箱 金十八銭
- ◇カレンダー懸星形——原紙銀紙十六種の星形着紙、應用の  
途多し。 五十枚 金二圓五十銭
- ◇羽子板材料——桐白木、之にお細工意匠をいたします。 十本 金一圓
- ◇風の材料——手技として面白く、和紙、竹骨で一組。 五十枚 金一圓
- ◇獨樂の材料——幼兒自身が製作意匠し廻はせるもの。 五十個 金一圓
- ◇カルタ——子供カルタ(三〇錢)・モモトラウカルタ(二五錢)・健康カルタ(十五錢)等幼  
兒專用の面白いもの。 健康カルタ(十五錢)等幼

株式會社 丸 貝 館

御 通 知

本店 東京・神田・今川小路・電話九三二八七番  
支店 大阪・東區・備後町・二六番・電話一六三番

大阪支店左記に移転  
相變らずにお引き立て

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
(毎月一回十五日發行)

昭和八年十月十二日印刷納本  
昭和八年十月十五日發行

定價 三拾五錢